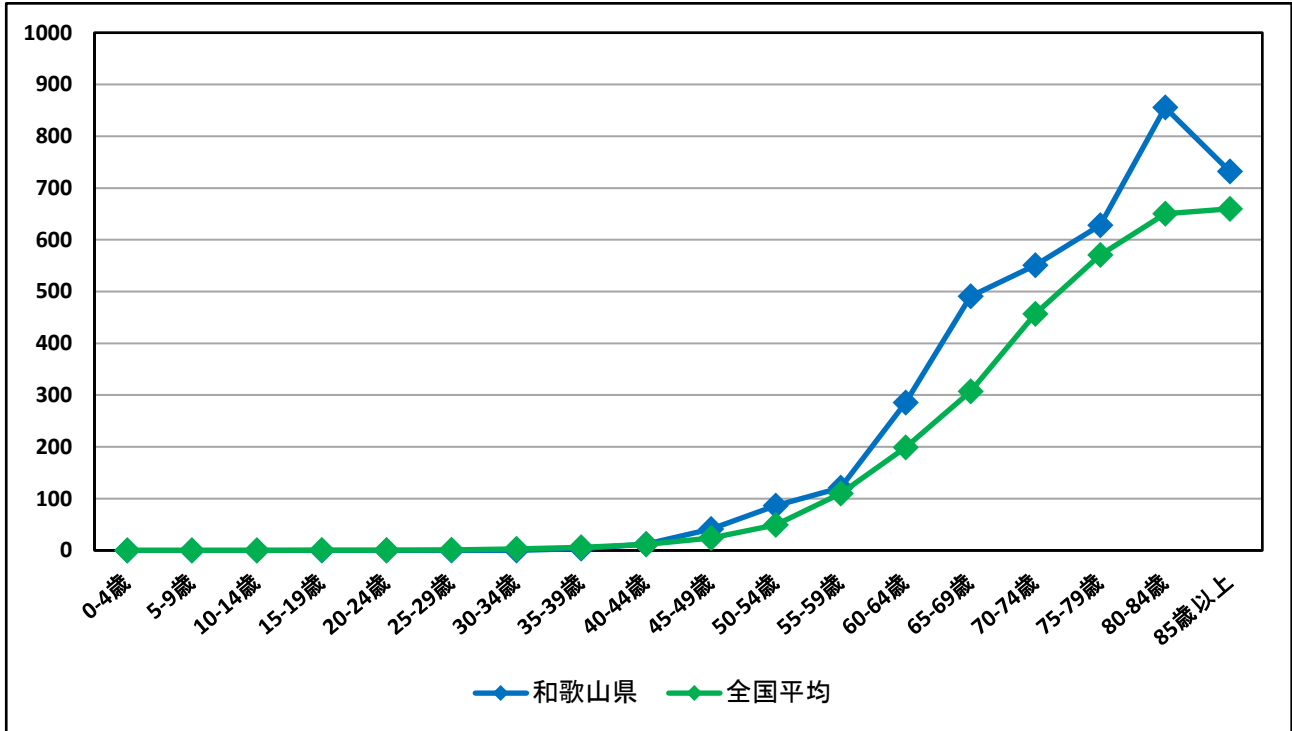


年齢階級別罹患率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

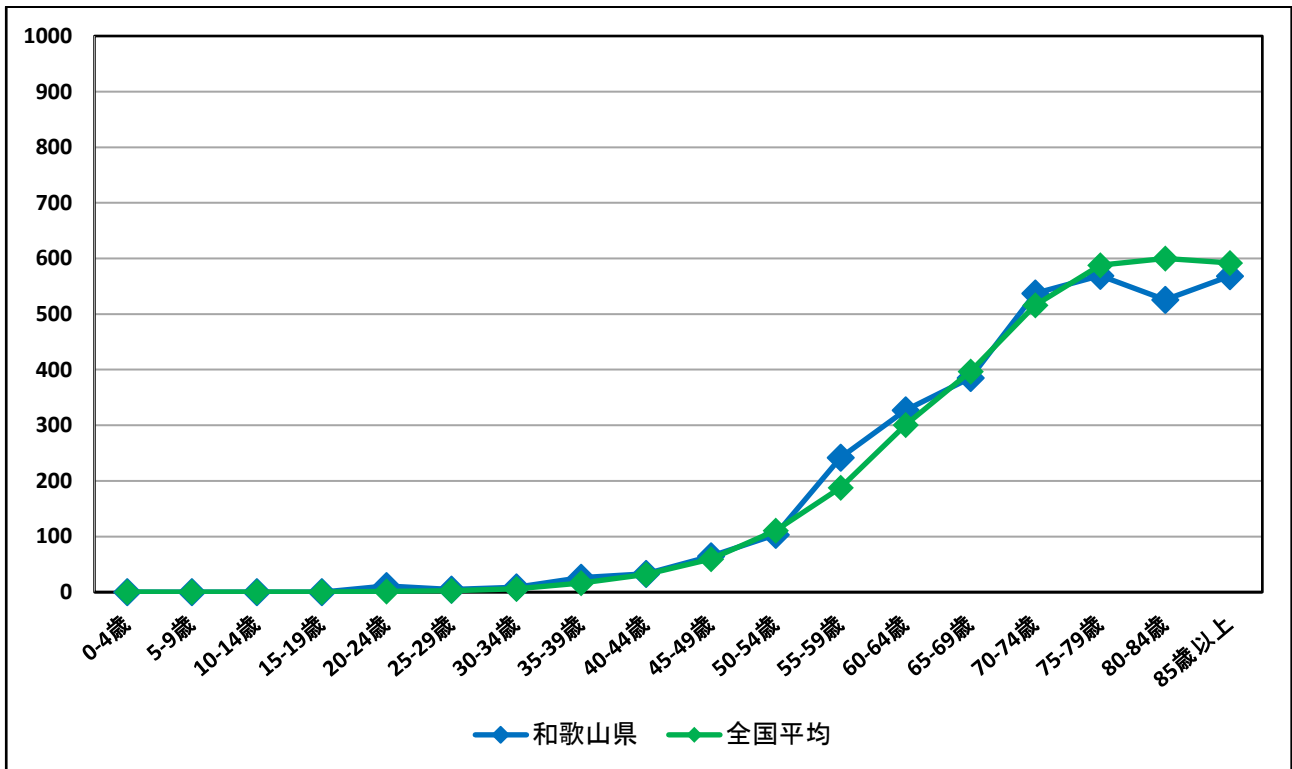
（和歌山県と全国平均との比較）男性 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-2-A、3-2-B から作成

本県の罹患率は、全国平均よりも高い年齢階級が多いが、胃がん、肺がんにおいては、顕著に高い年齢階級がある。

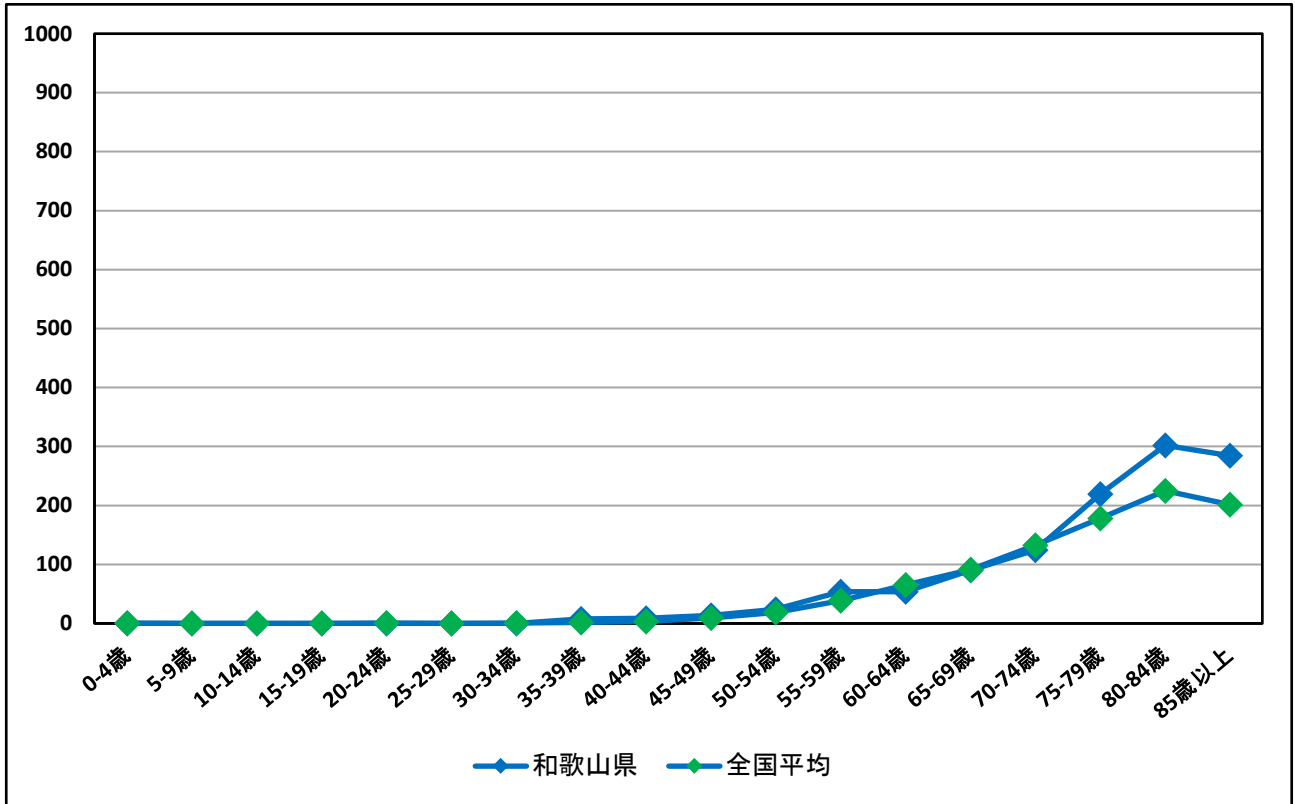
① 胃



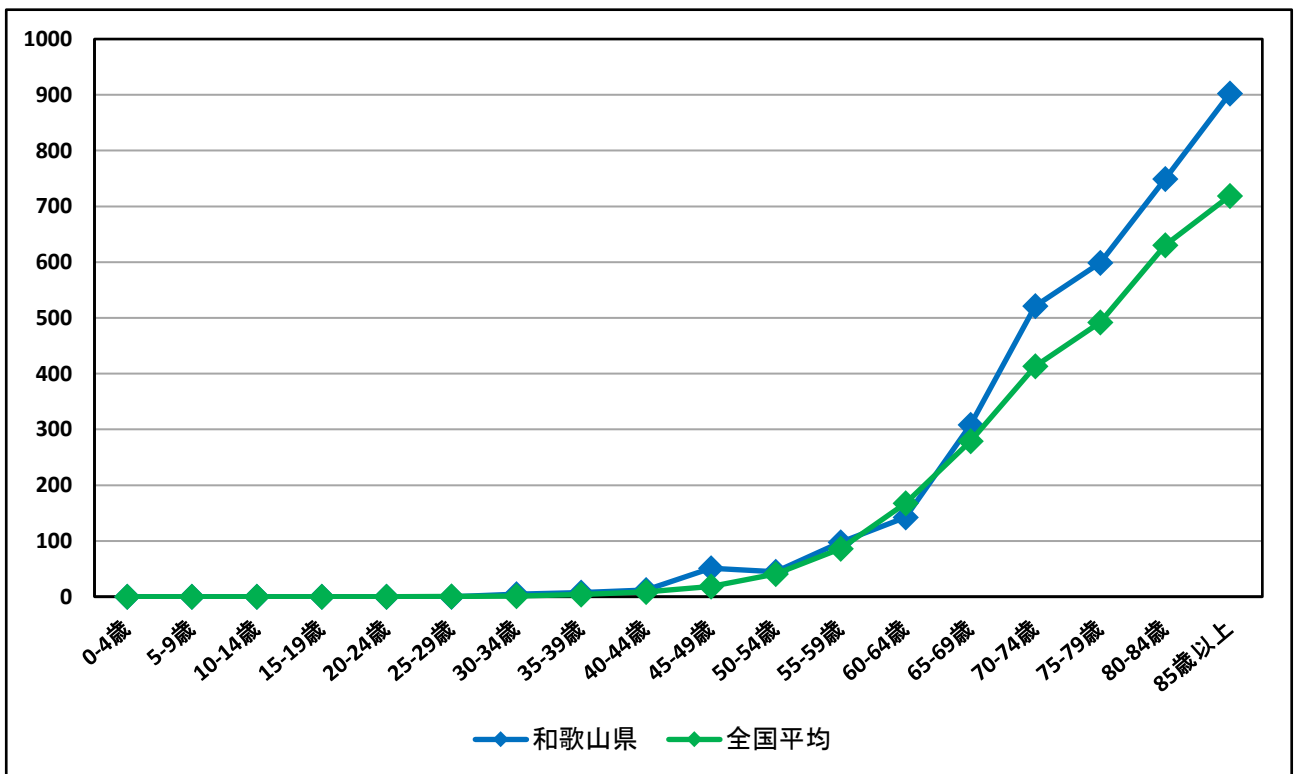
② 大腸（結腸・直腸）



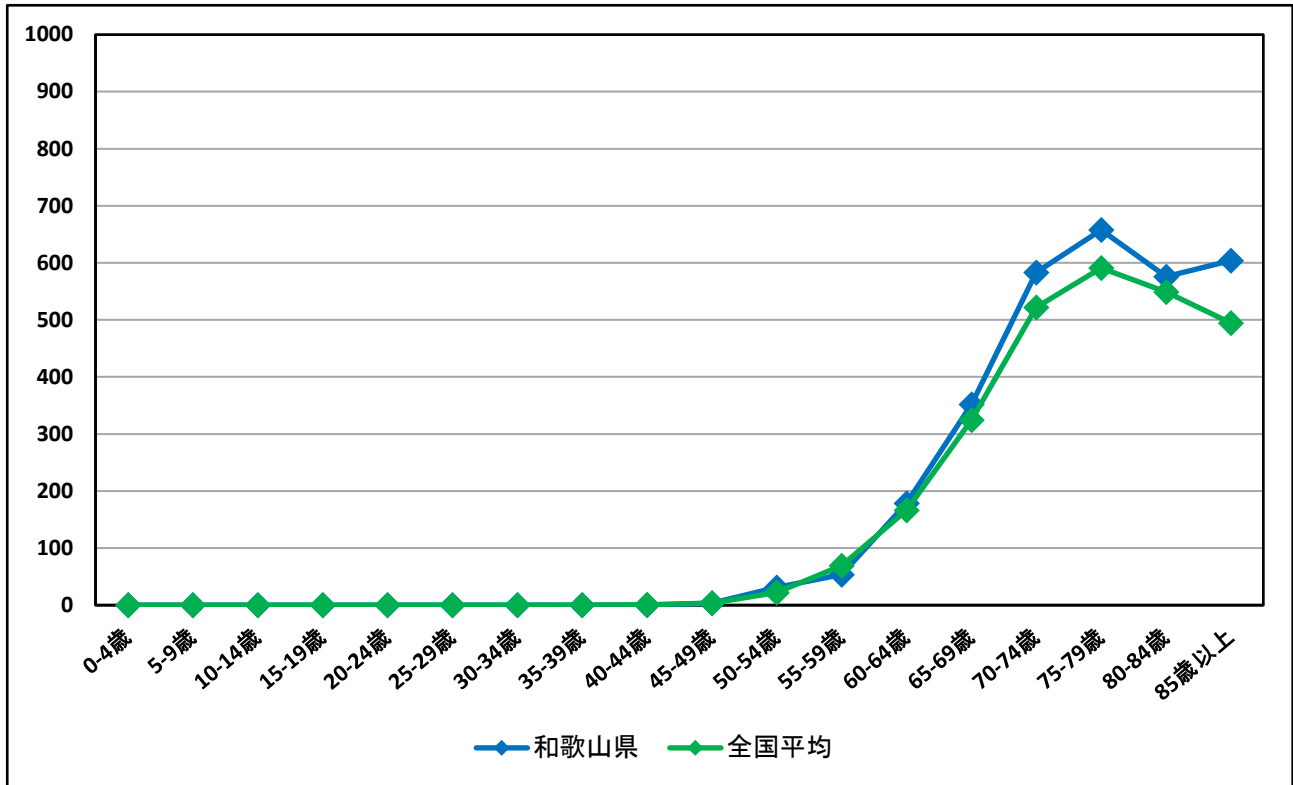
③ 肝および肝内胆管



④ 肺



⑤ 前立腺



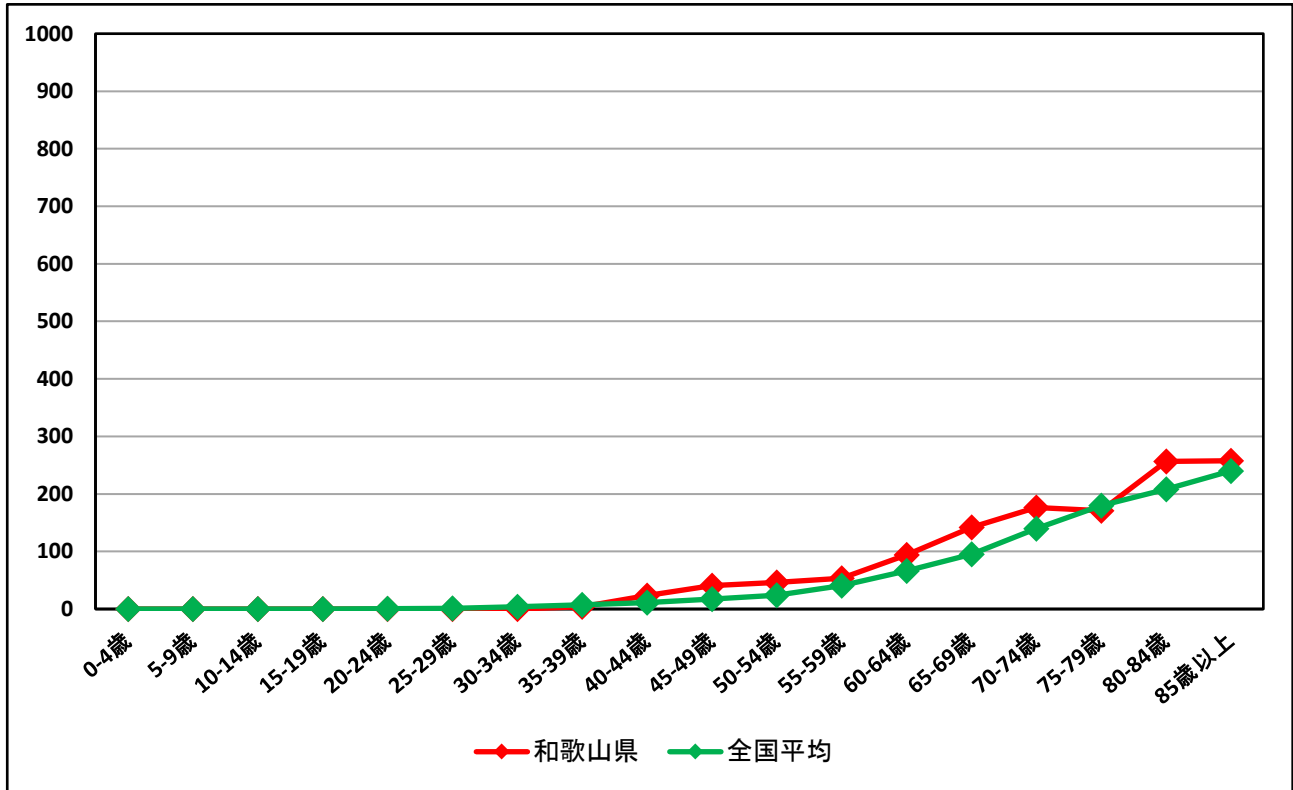
年齢階級別罹患率（人口10万対）：部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）女性

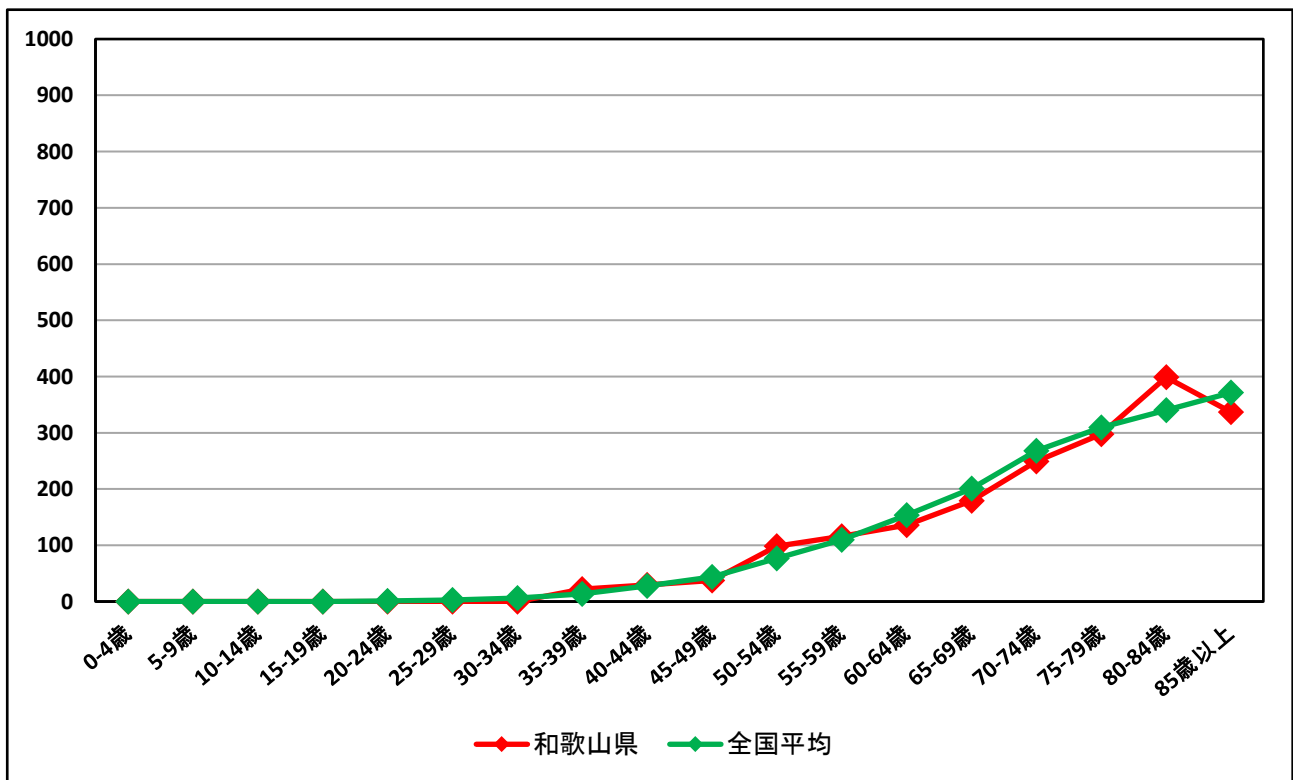
※和歌山県の数字は、標準集計表の表3-2-A、3-2-Bから作成

本県の罹患率は全国平均と近いが、胃がんについては、全国平均より高い年齢階級が見られる。

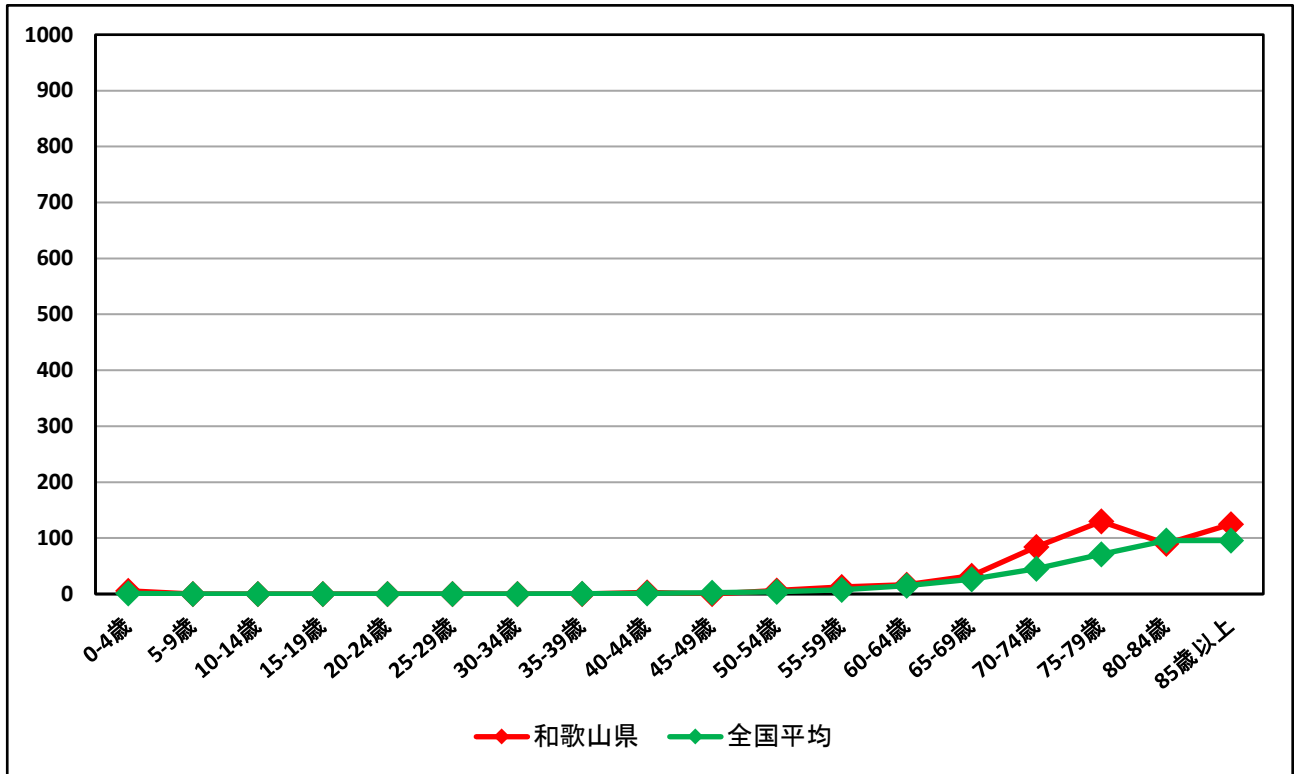
① 胃



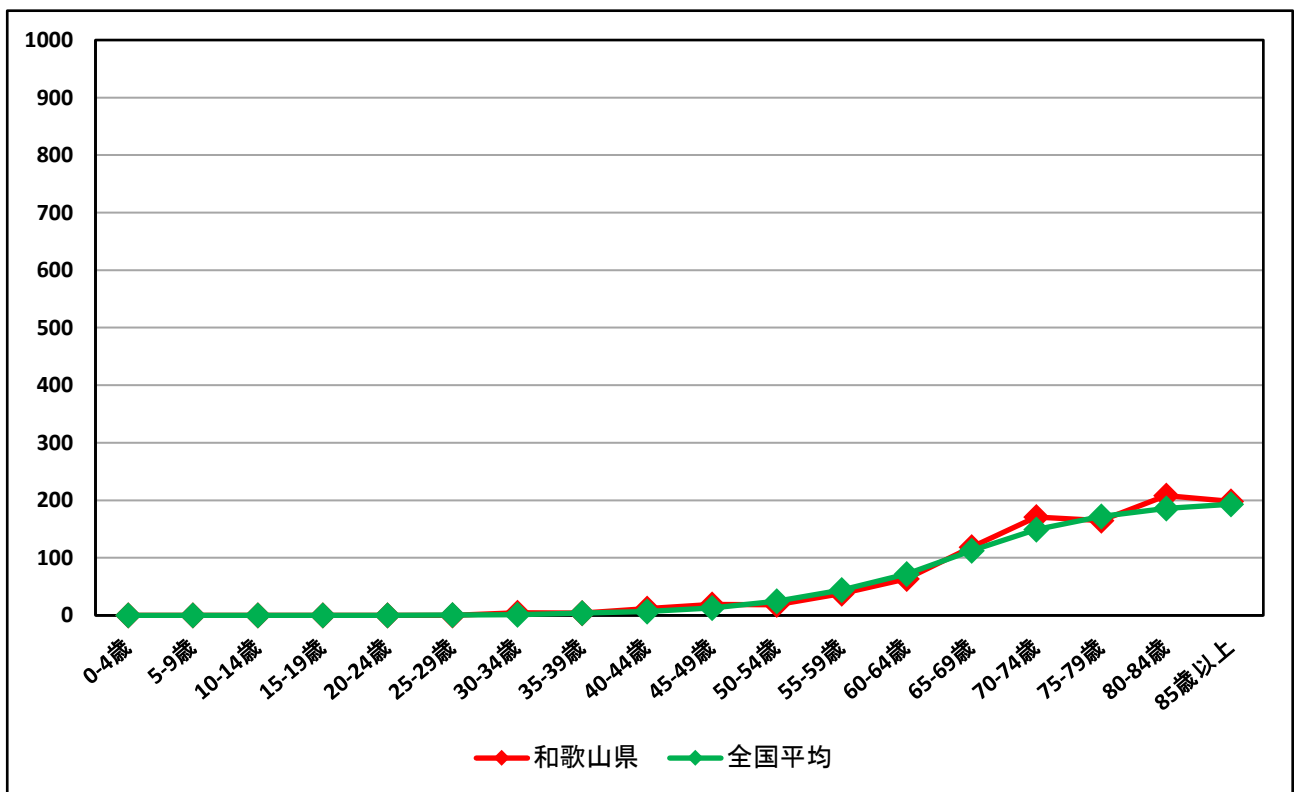
② 大腸（結腸・直腸）



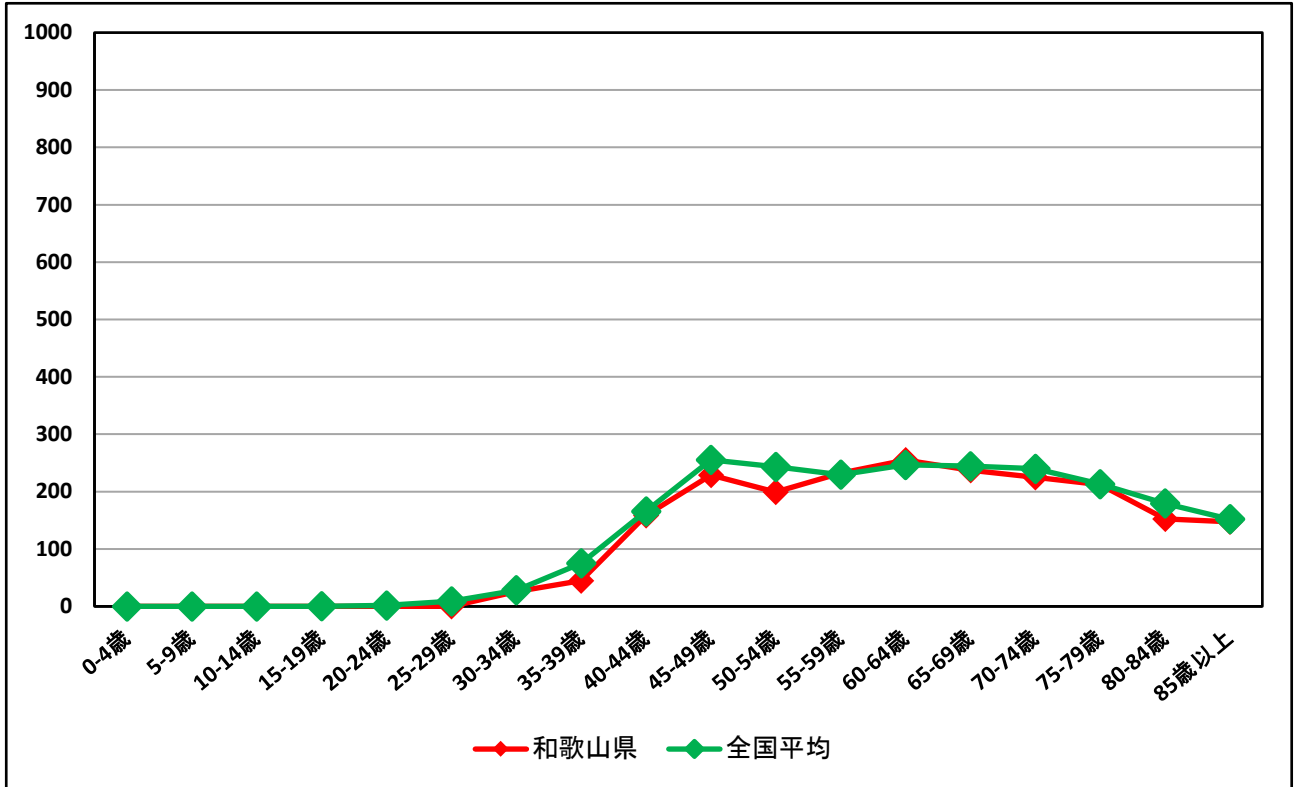
③ 肝および肝内胆管



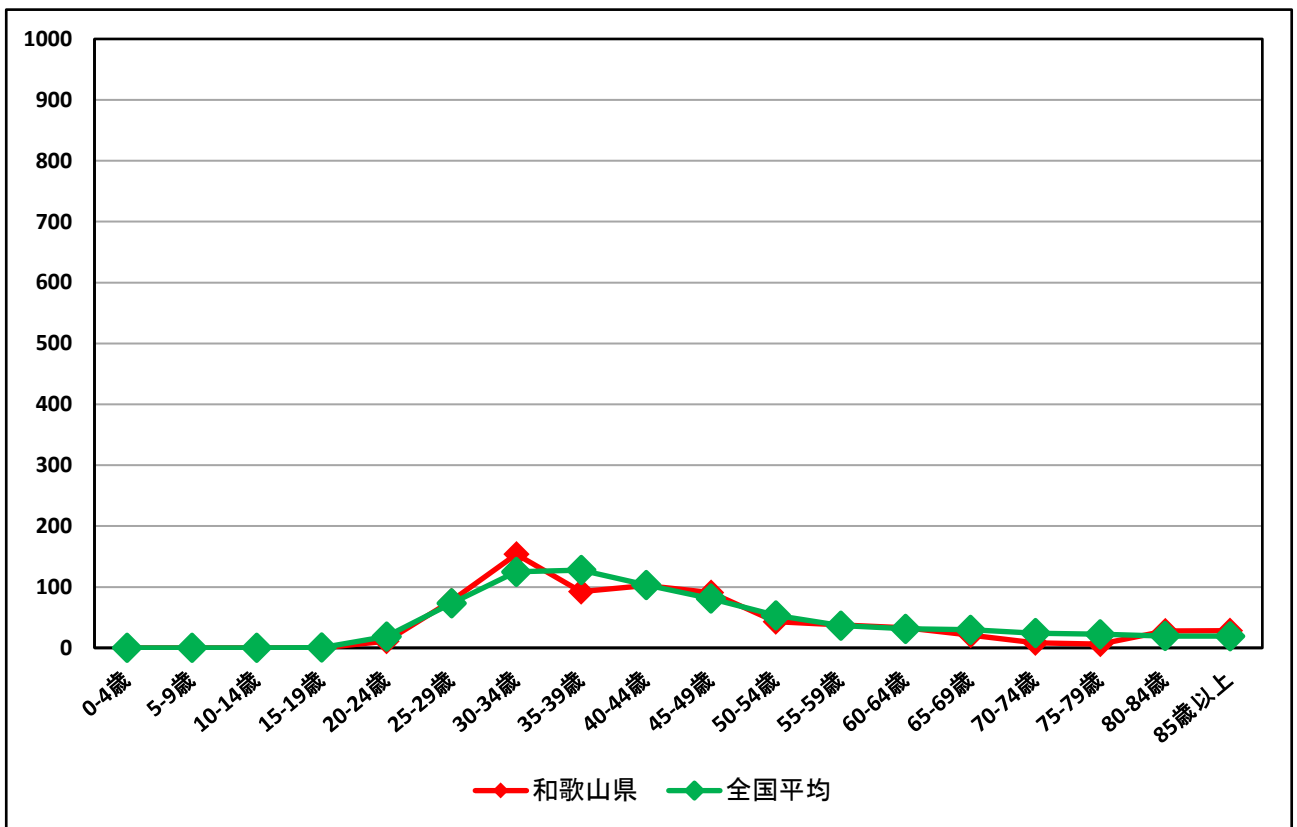
④ 肺



⑤ 乳房



⑥ 子宮頸部

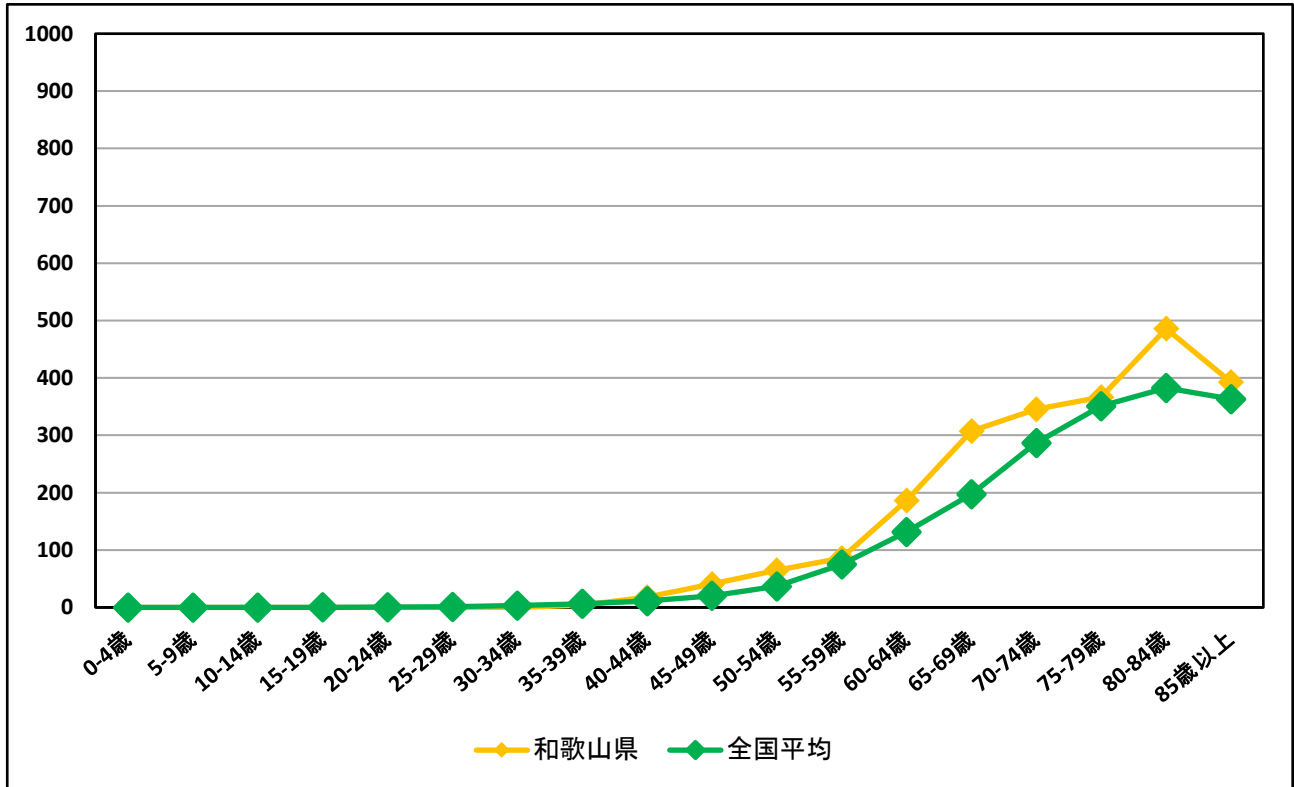


年齢階級別罹患率（人口10万対）：部位別、性別（主要部位）

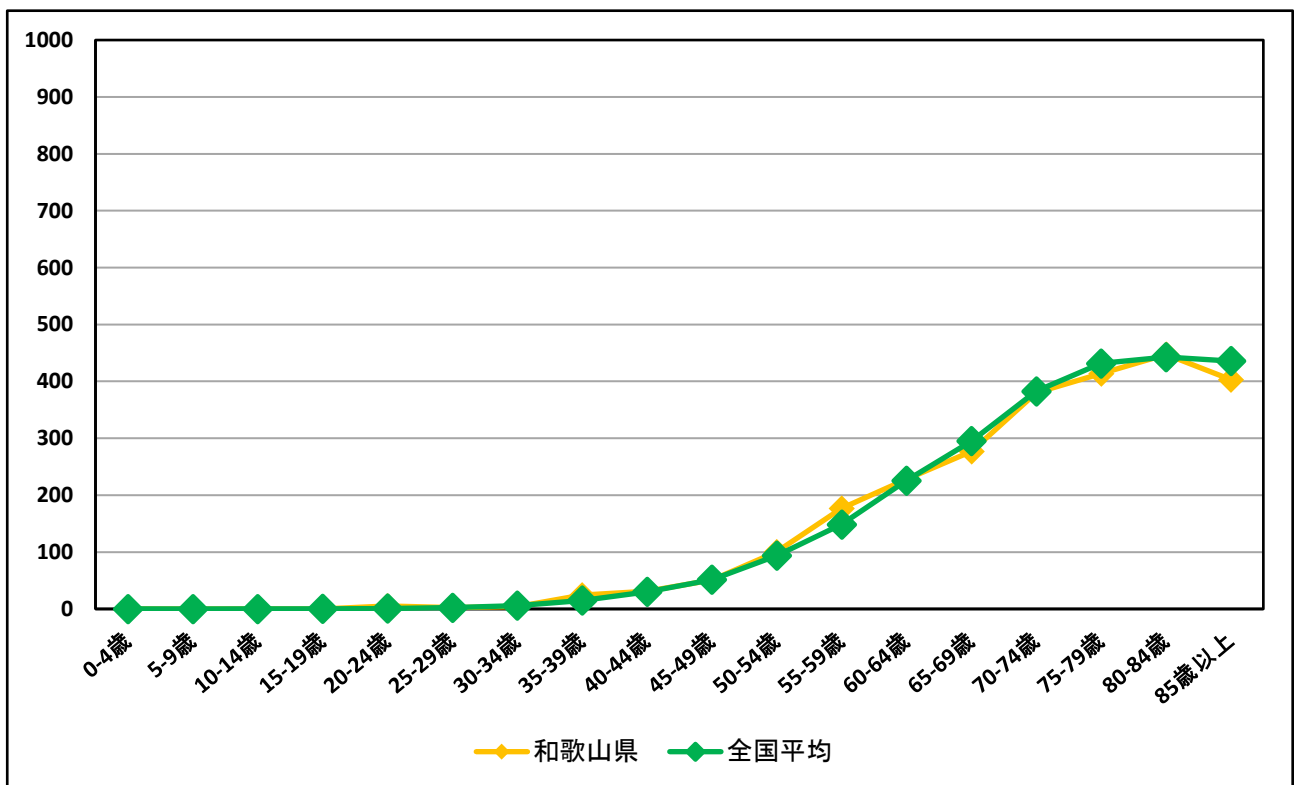
（和歌山県と全国平均との比較）男女計 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表3-2-A、3-2-Bから作成

60歳以上の年齢階級で、罹患率が全国平均より高いがんが多く、特に、胃がんや肺がんが高くなっている。

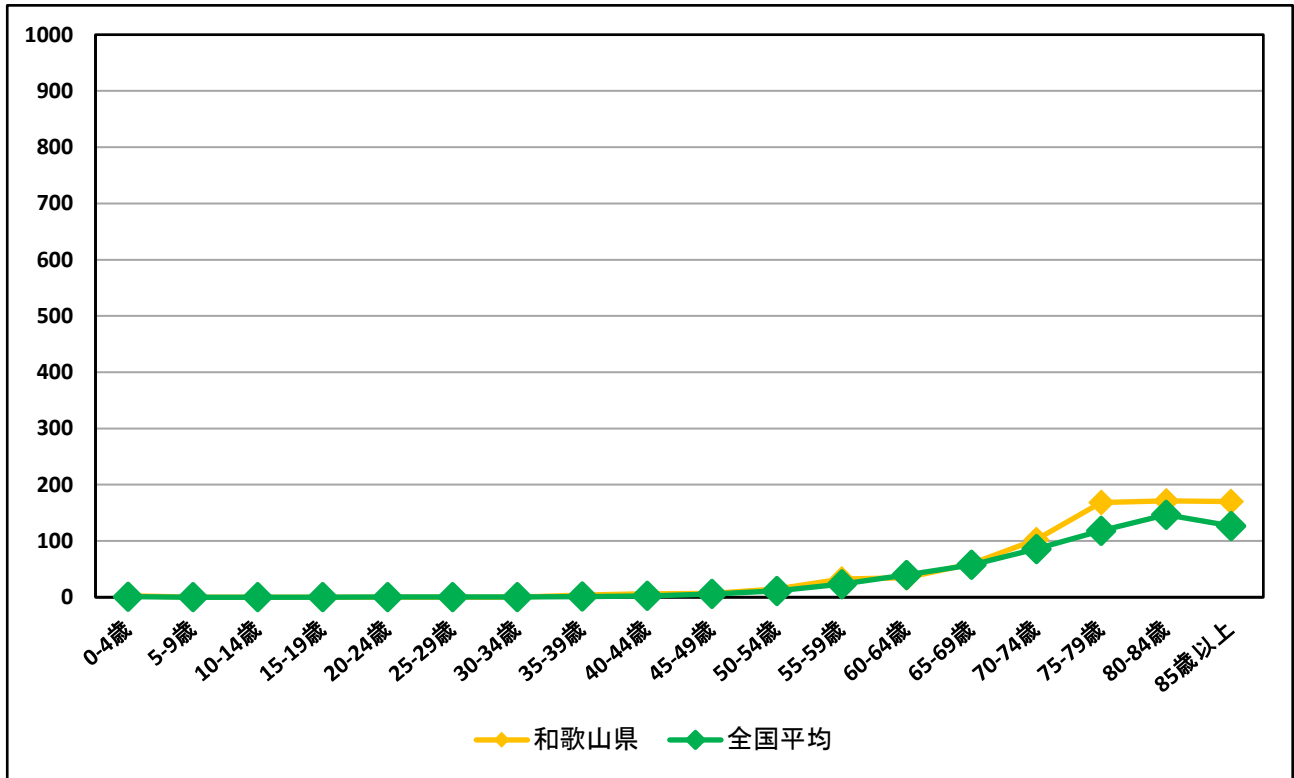
① 胃



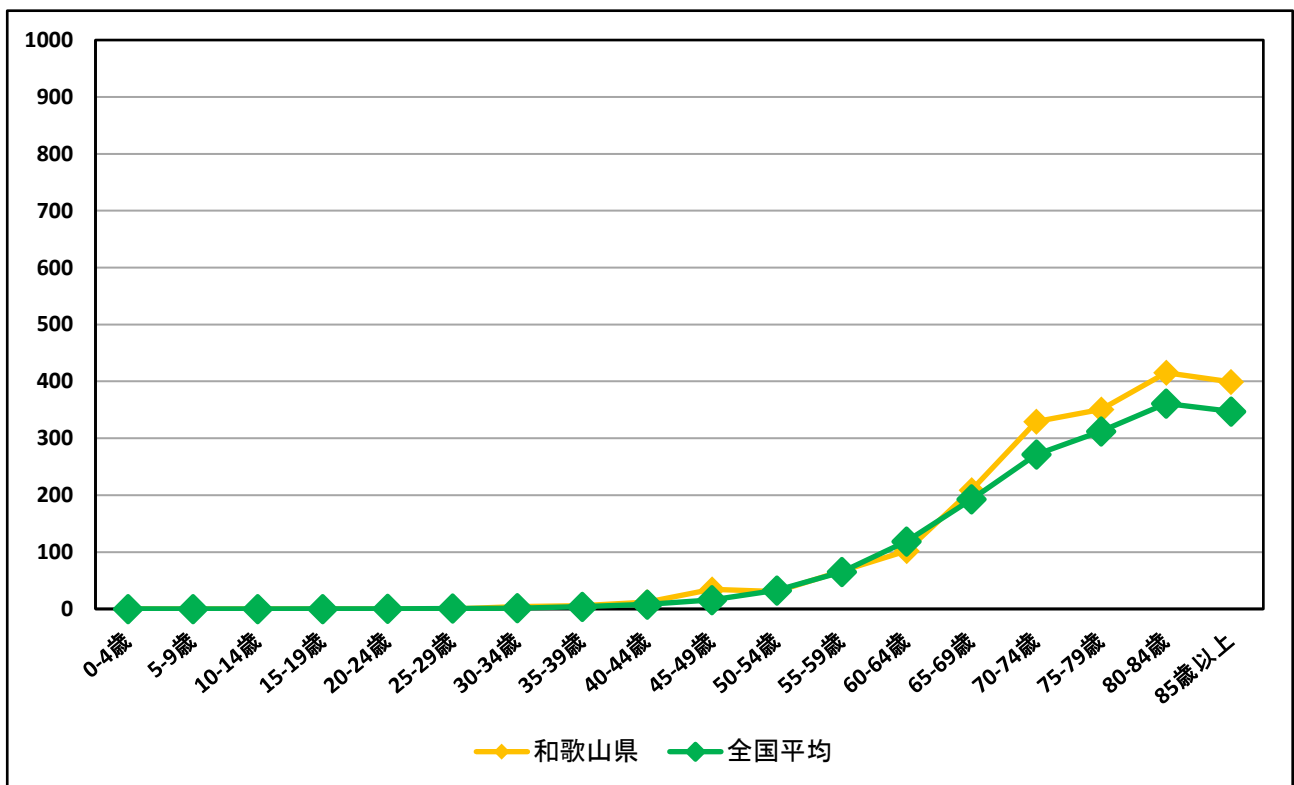
② 大腸（結腸・直腸）



③ 肝および肝内胆管

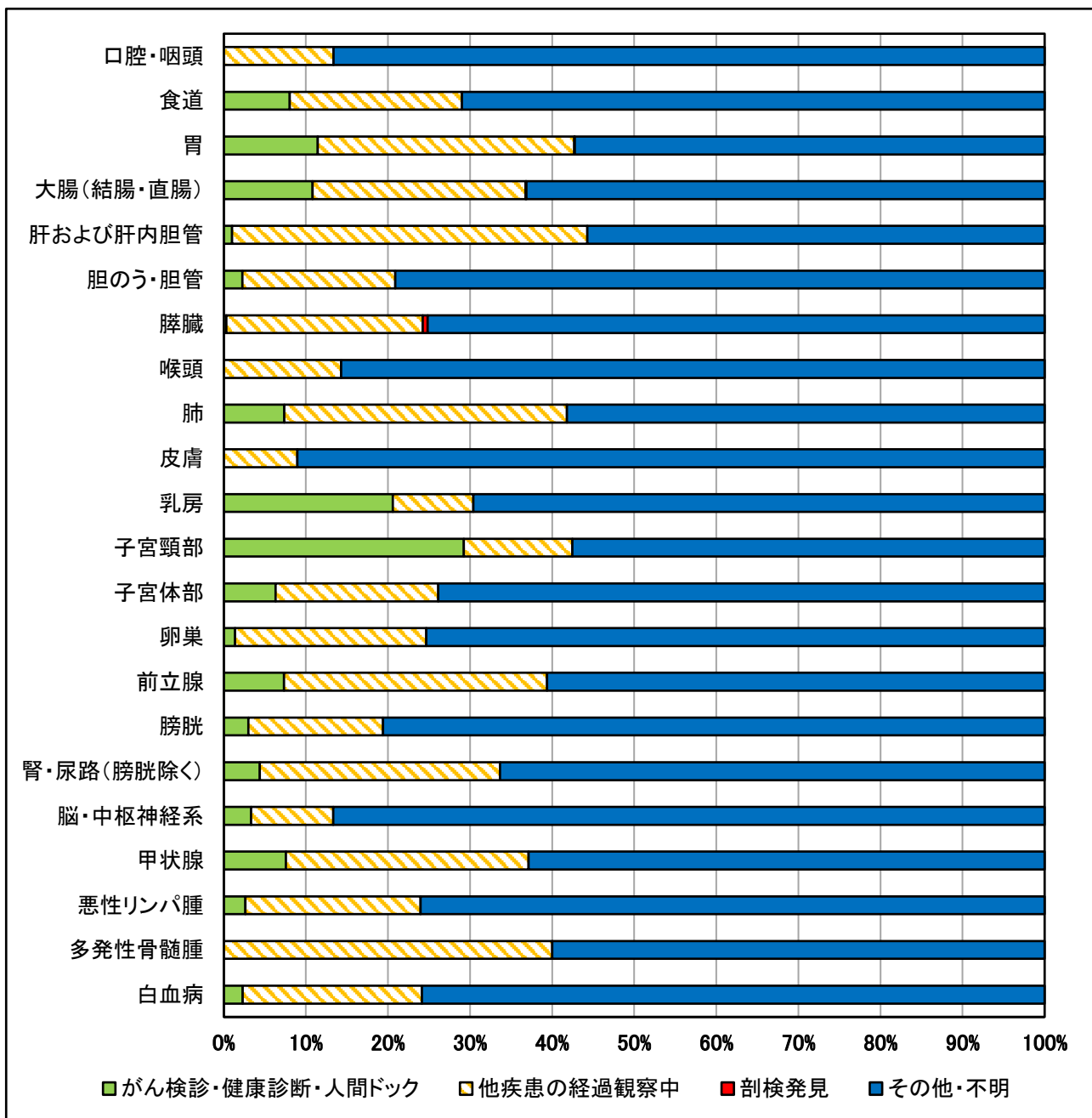


⑤ 肺



発見経緯 (%) 部位

【和歌山県の状況】



乳がん、子宮頸がんでは、がん検診・健康診断・人間ドッグによる発見が20%から30%の割合を占めている。

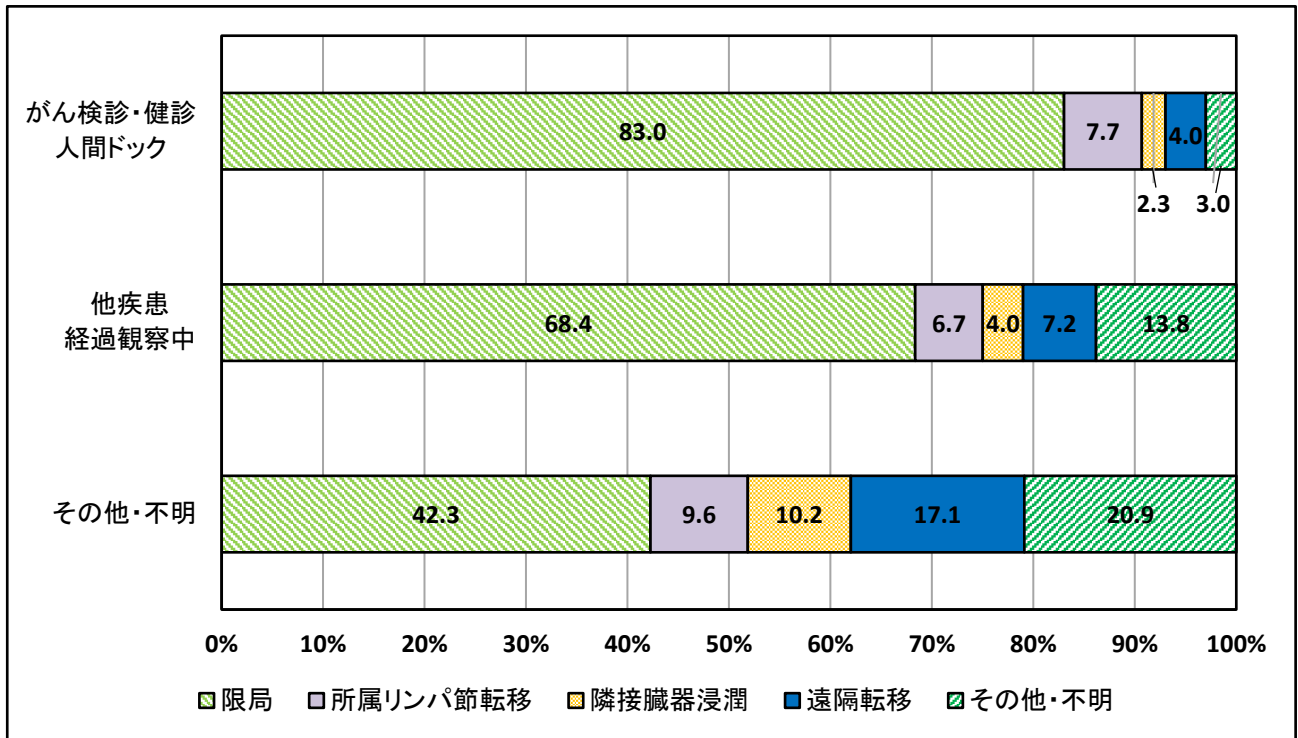
また、肝および肝内胆管がんでは、他疾患の経過観察中の割合が約40%である。これは、慢性肝炎及び肝硬変の治療中に発見されるケースが多いためであると考えられる。

※標準集計表の表4-A、4-Bから作成

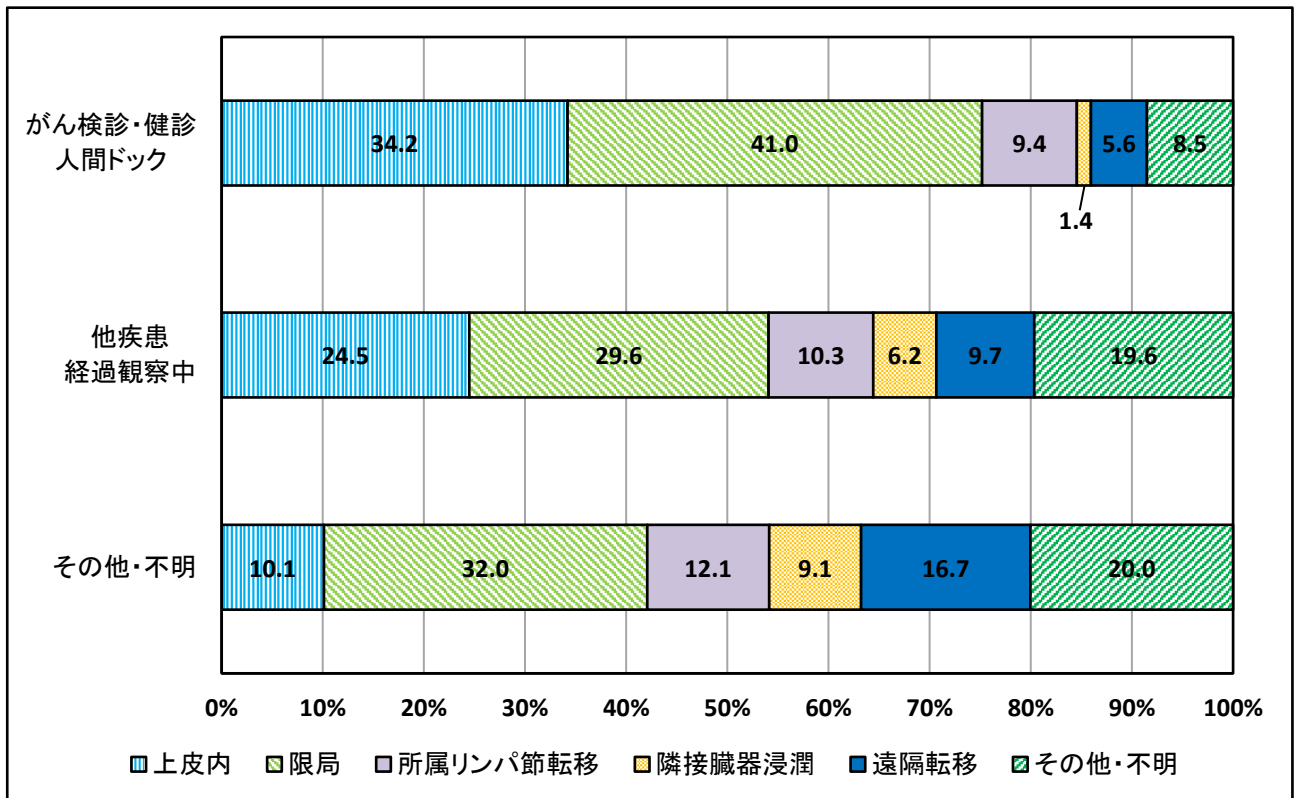
部位別・発見経緯別・病巣の拡がり（％）の関係

和歌山県でがん検診が実施されている部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）別に「がん」が発見されるに至った経緯と「がん」の進行度（病巣の拡がり）の割合との関係性を調査した。ここで示すデータは、2013年～2015年診断分（3年分）のデータを利用した。

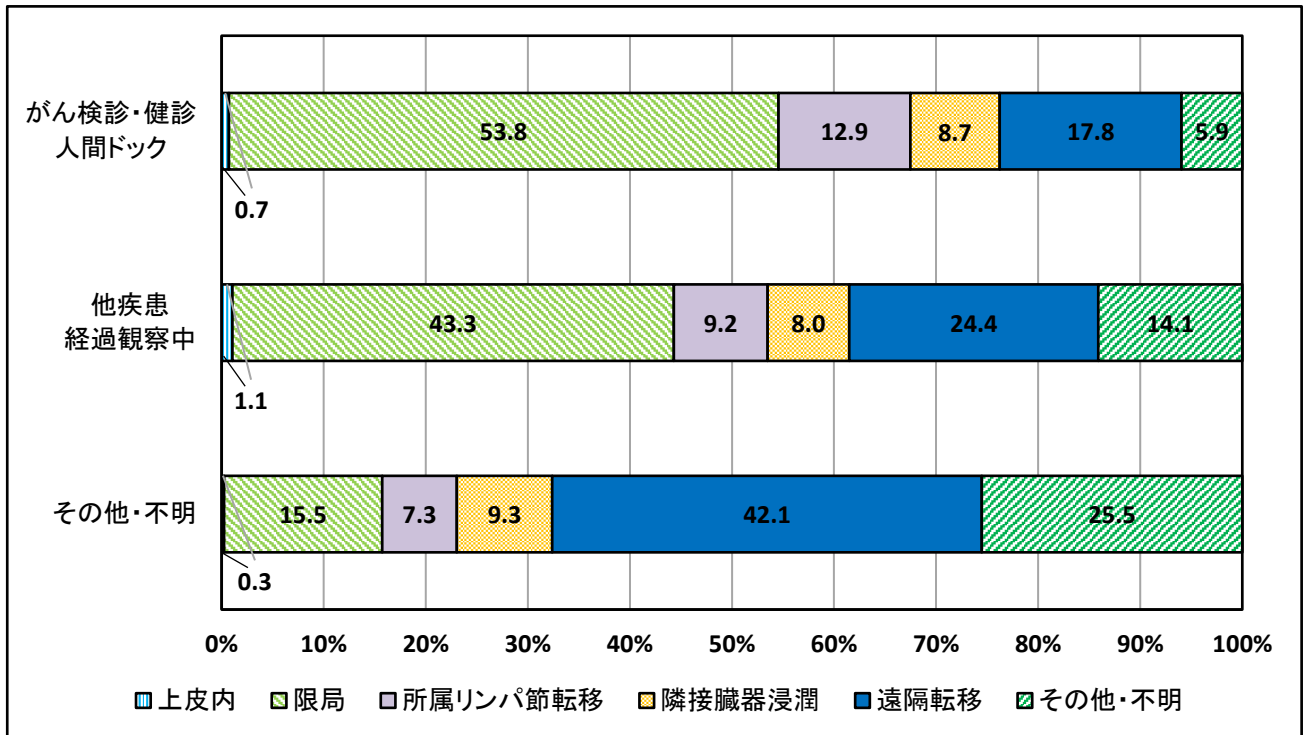
①胃がん



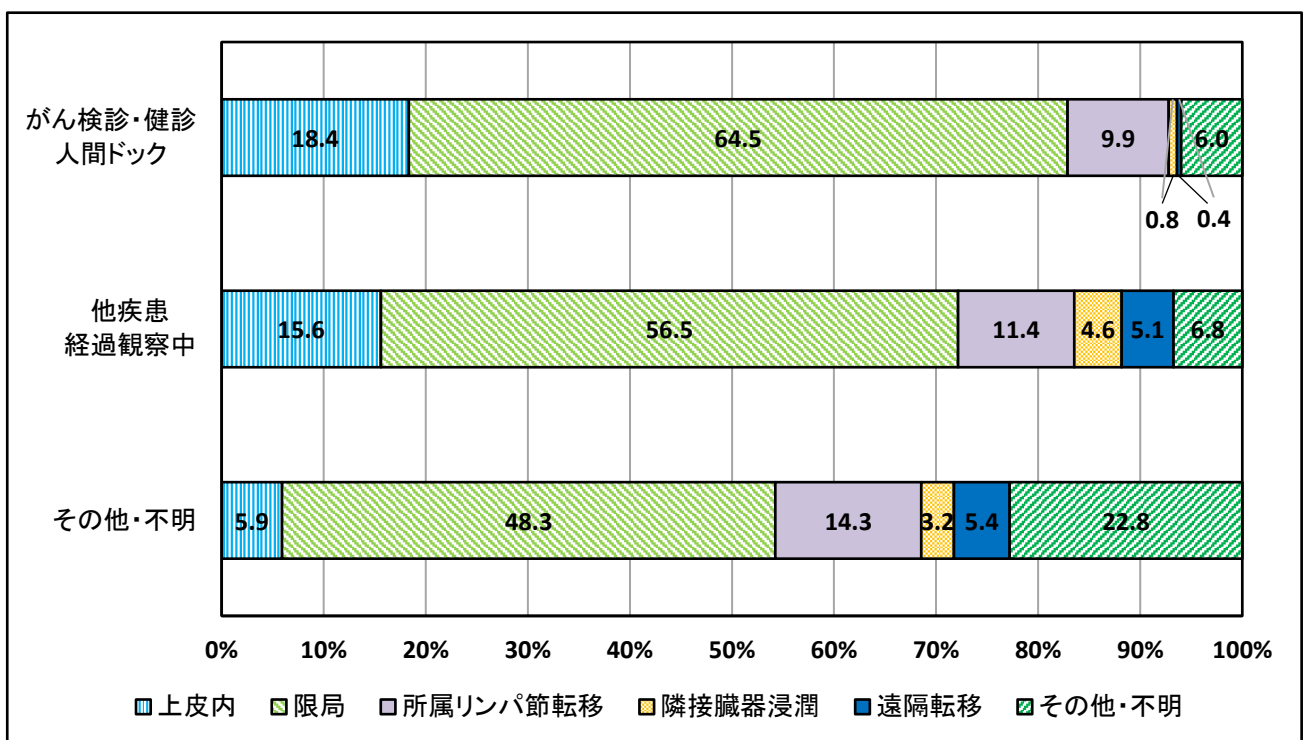
②大腸がん



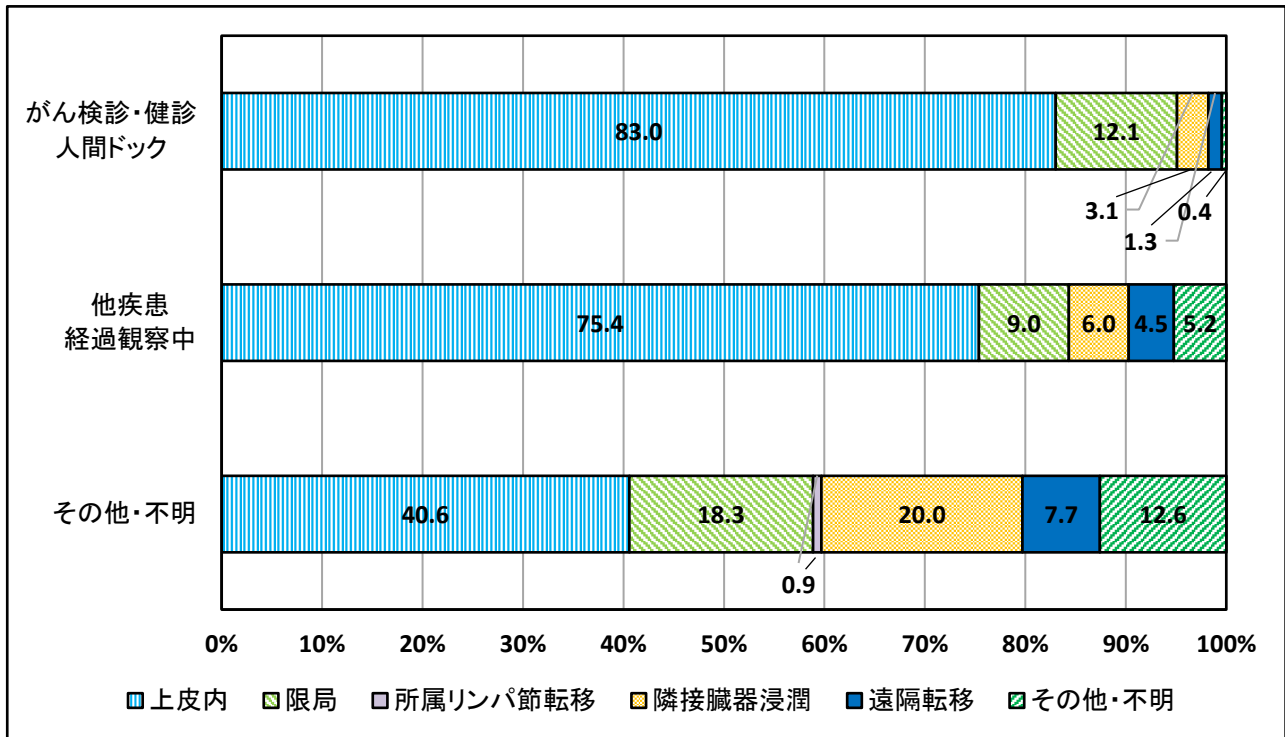
③肺がん



④乳がん



⑤子宮頸がん



- ※ 一般的に「早期がん」と言われる病巣の拡がりは、上皮内と限局のことを示す。
- ※ 胃がんの病巣の拡がり「上皮内」は存在しない。
- ※ 発見経緯の「他疾患の経過観察中」とは、慢性疾患等で通院中に「がん」と診断されるに至った経緯のことを示す。

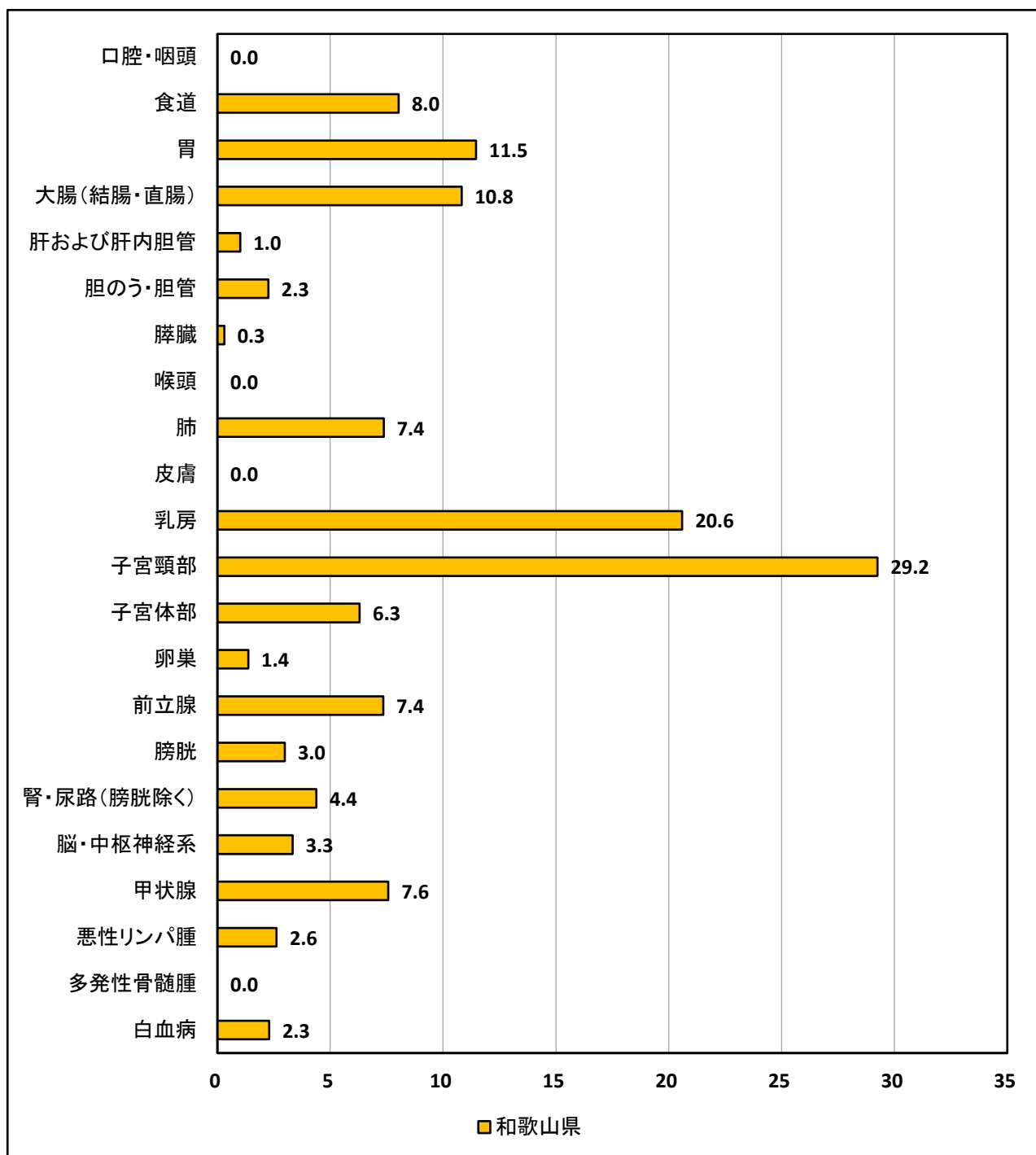
胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部のいずれにおいても、「がん検診・健康診断・人間ドッグ」で発見された場合は、「上皮内・限局」の状態と診断される割合が高く、【その他・不明】で発見された場合になると、「所属リンパ節転移、隣接臓器浸潤、遠隔転移」のがんが進行した状態で診断される割合が高くなっている。

なお、「その他・不明」には、何らかの自覚症状を自覚してから医療機関を受診するケースを含んでいる。

以上のことから、がん検診や健康診断、人間ドッグはがんの早期発見に有効であることがわかる。

部位別・発見経緯別罹患率（%）男女計

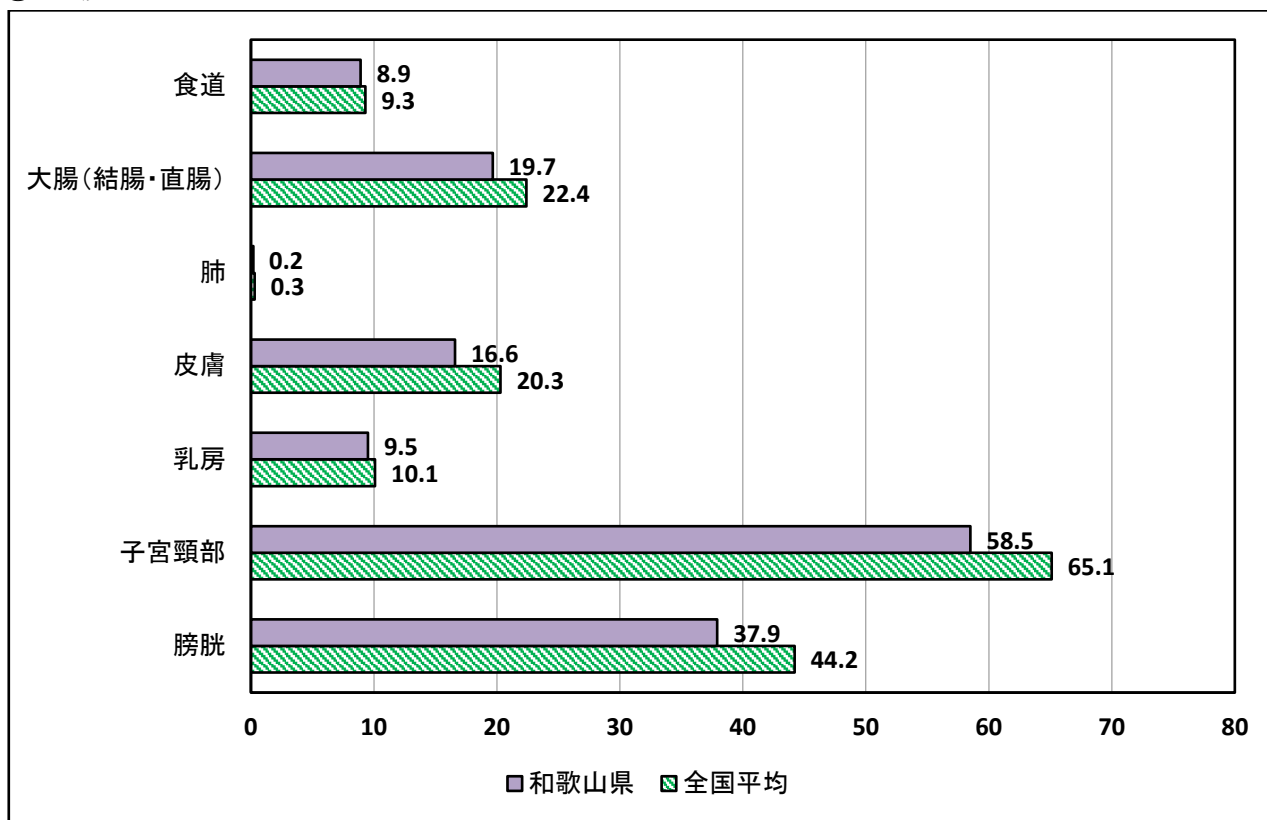
【発見経緯が「がん検診・健康診断・人間ドッグ」の割合】



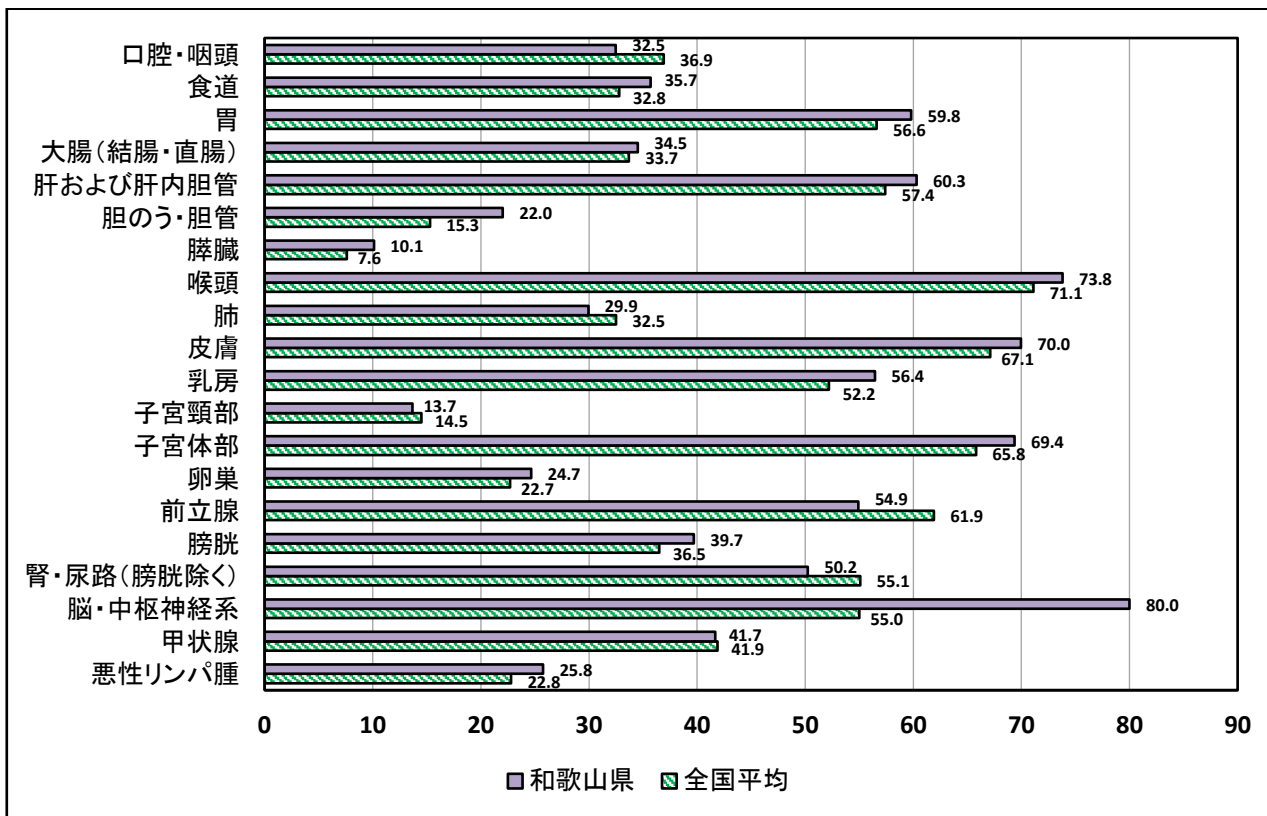
※標準集計表の表 4-A、4-B から作成

部位別・進展度分布 (%) 全国平均との比較

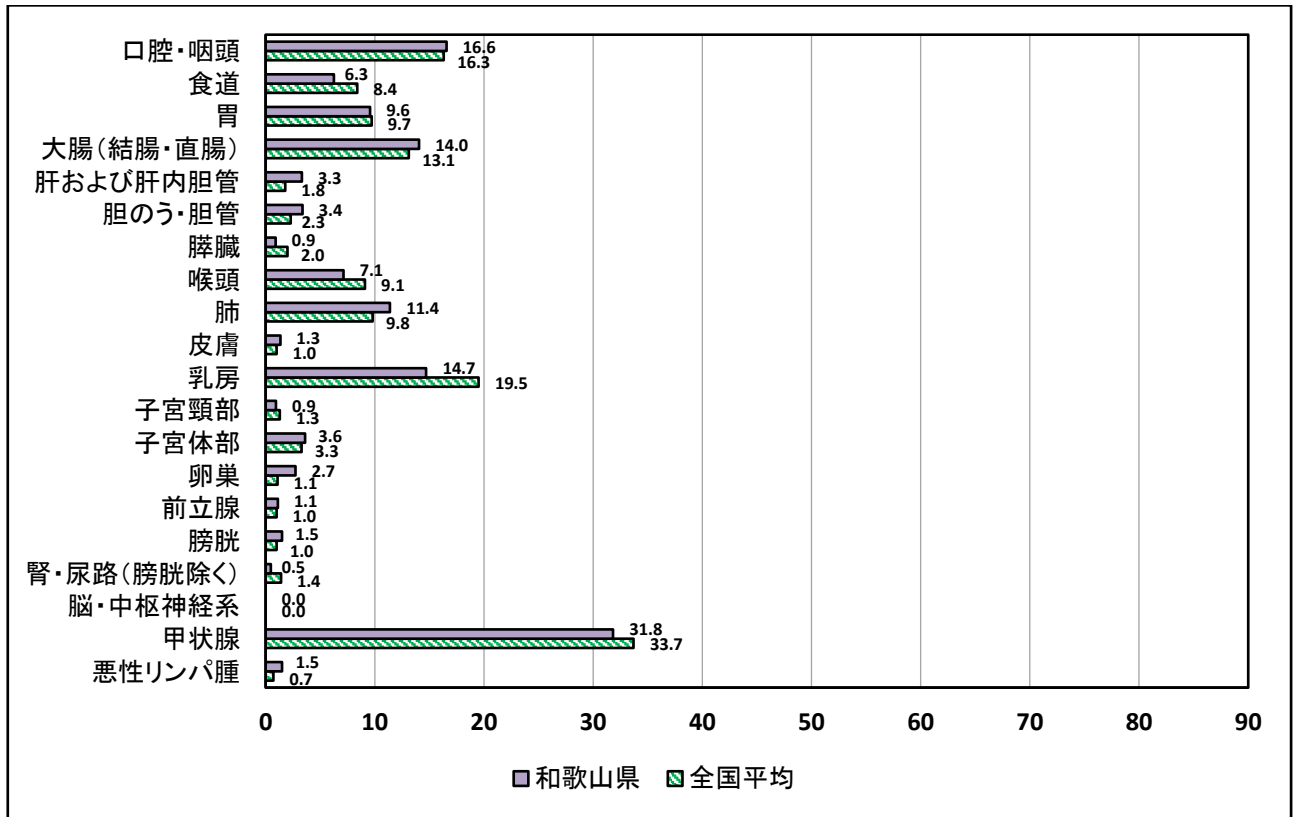
① 上皮内



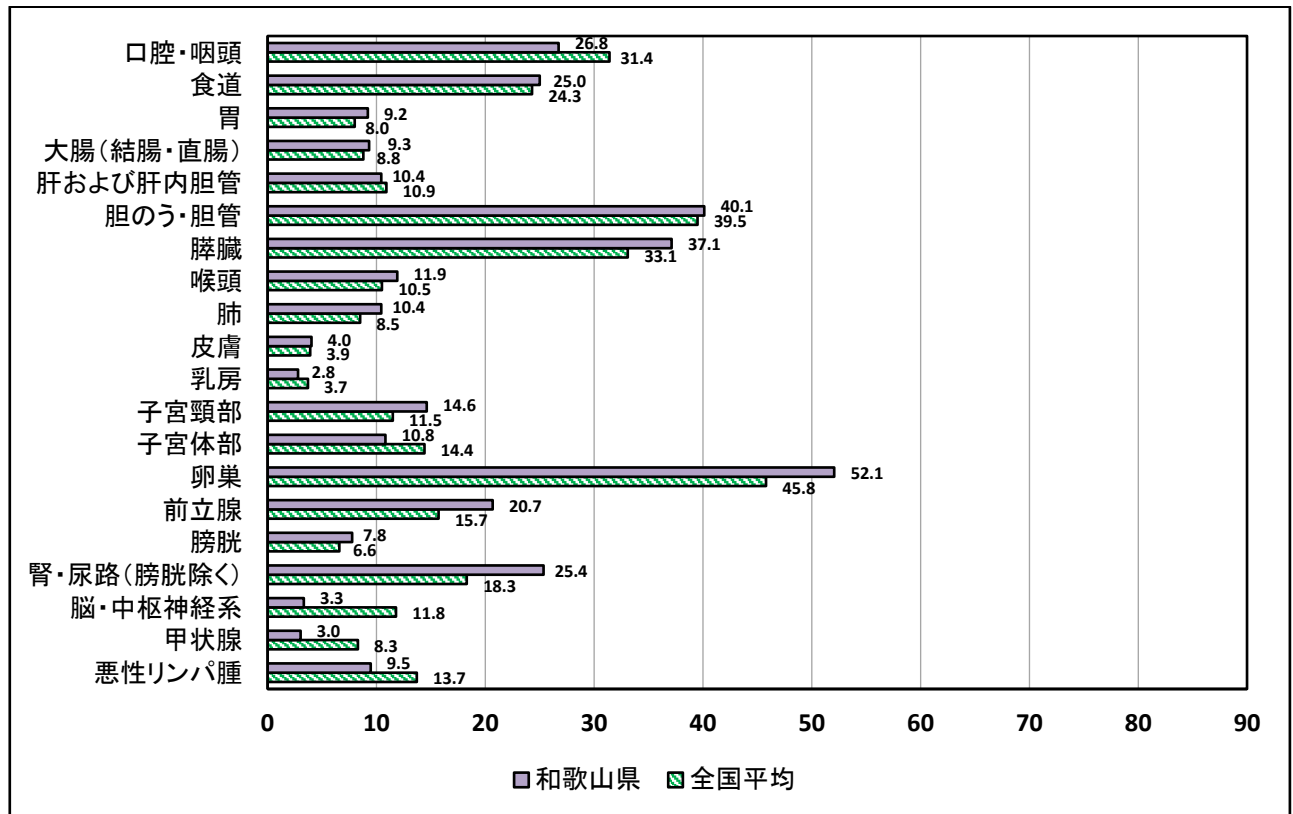
② 限局



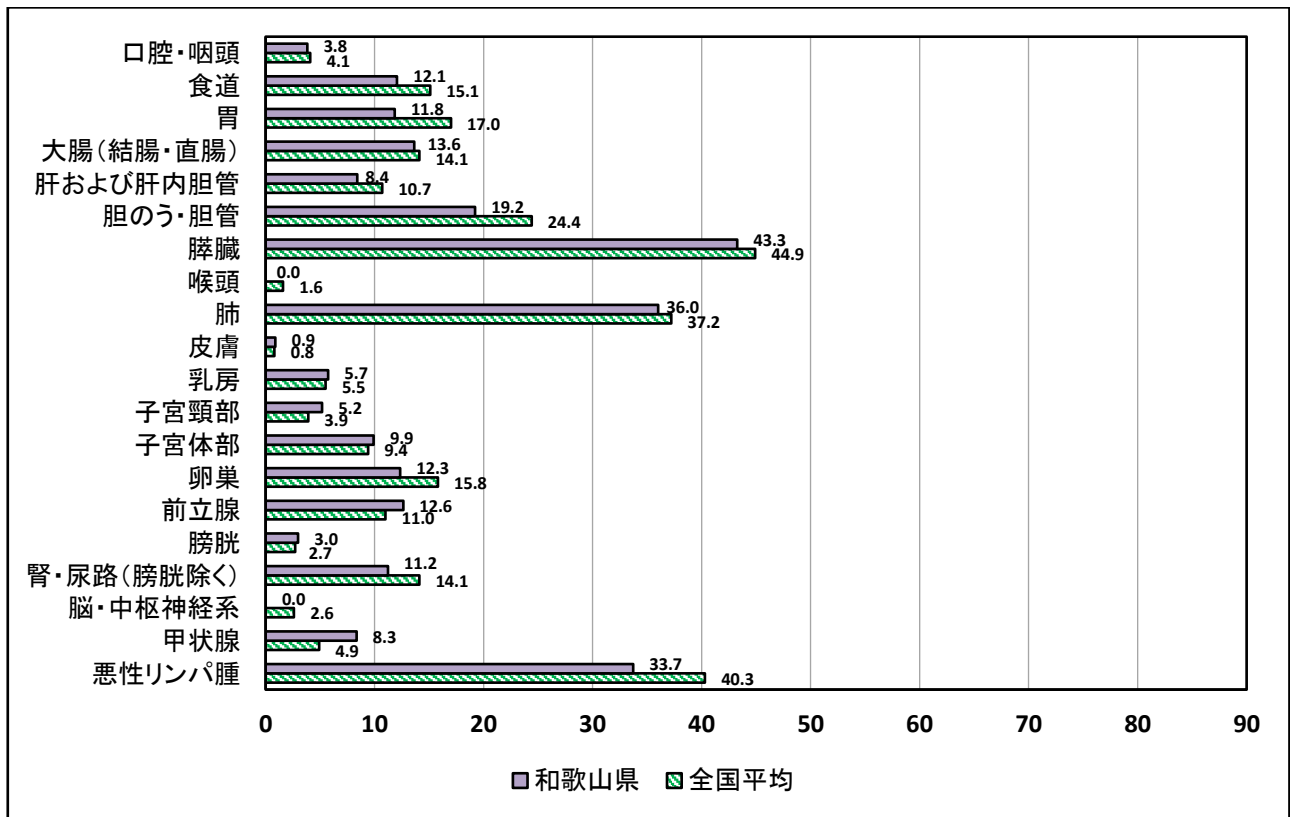
③ 領域リンパ節転移



④ 隣接臓器浸潤

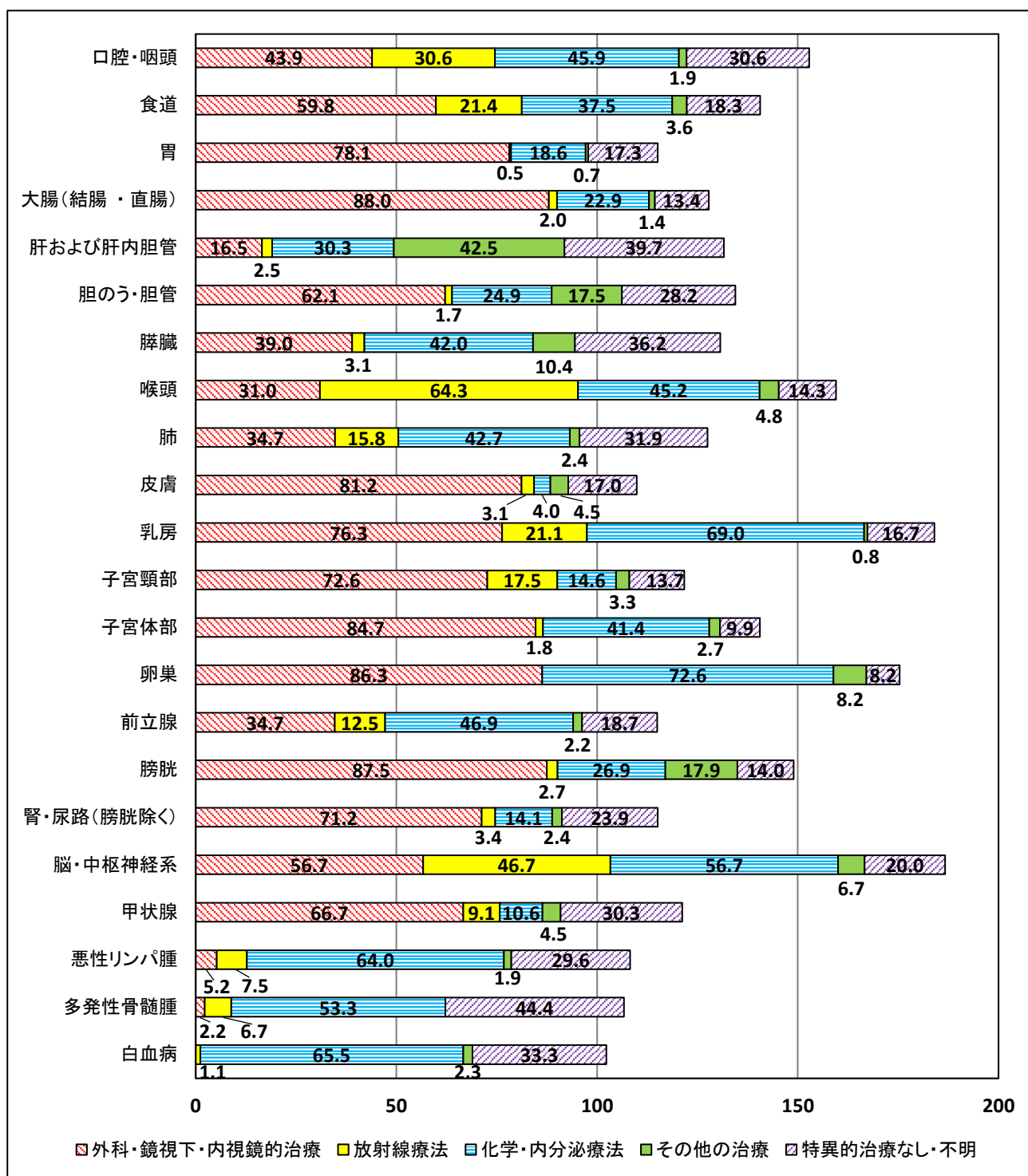


⑤ 遠隔転移



※標準集計表の表 5-1-A、5-1-B から作成

部位別・受療割合 (%)

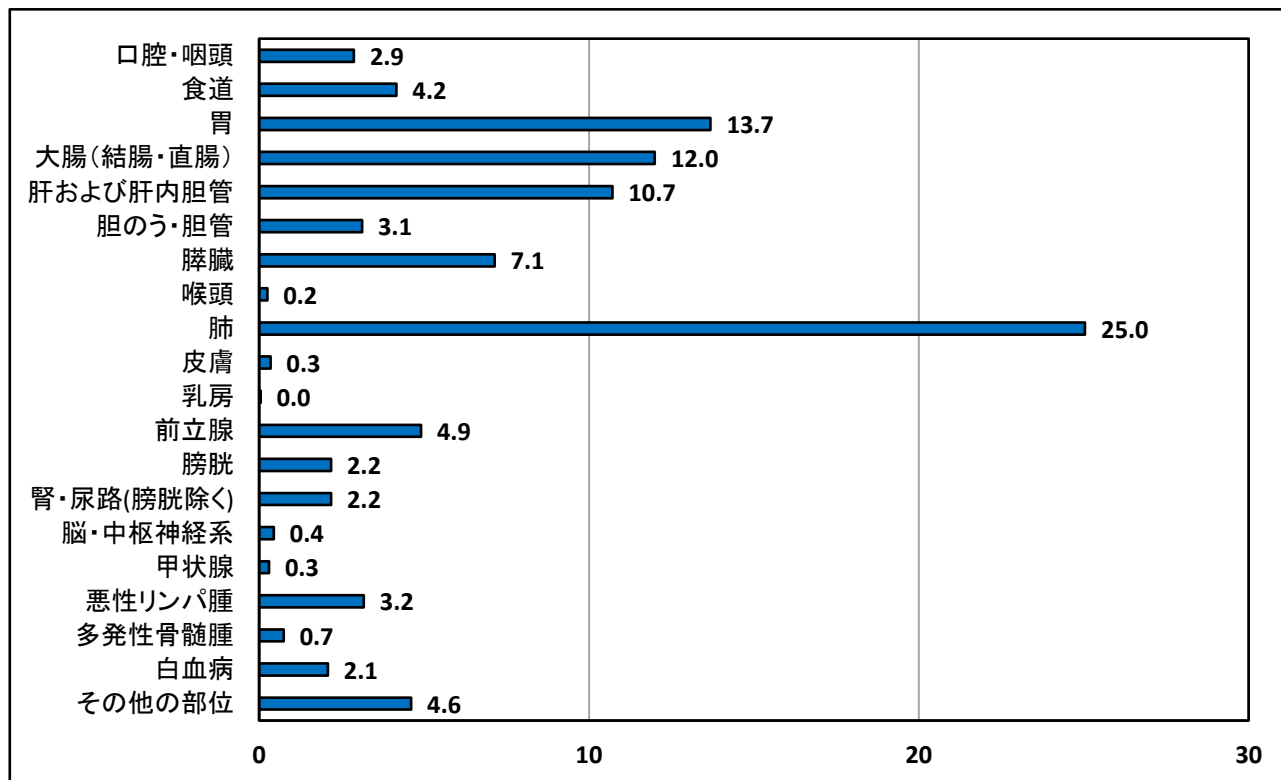


※重複を含むため 100%にならない。

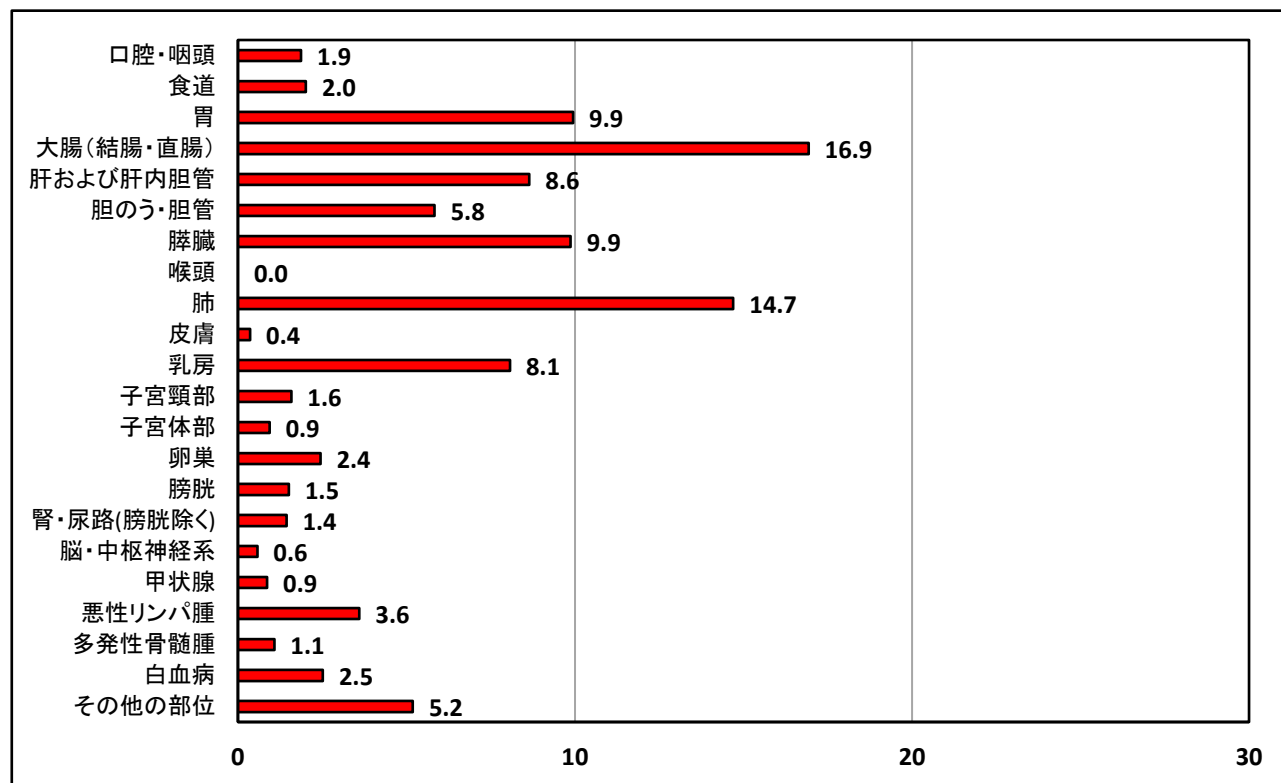
受療割合で見ると、外科・鏡視下・内視鏡的治療の割合は高く、特に大腸（結腸・直腸）がん、膀胱がん、卵巣がんや子宮体部がんが高くなっている。また、放射線療法は喉頭がん、脳・中枢神経系、口腔・咽頭がん、食道がんで高く、化学・内分泌療法は、卵巣がん、乳がん、白血病、悪性リンパ腫、脳・中枢神経系で多く実施されている。

※ 標準集計表の表 6-A、6-B から作成

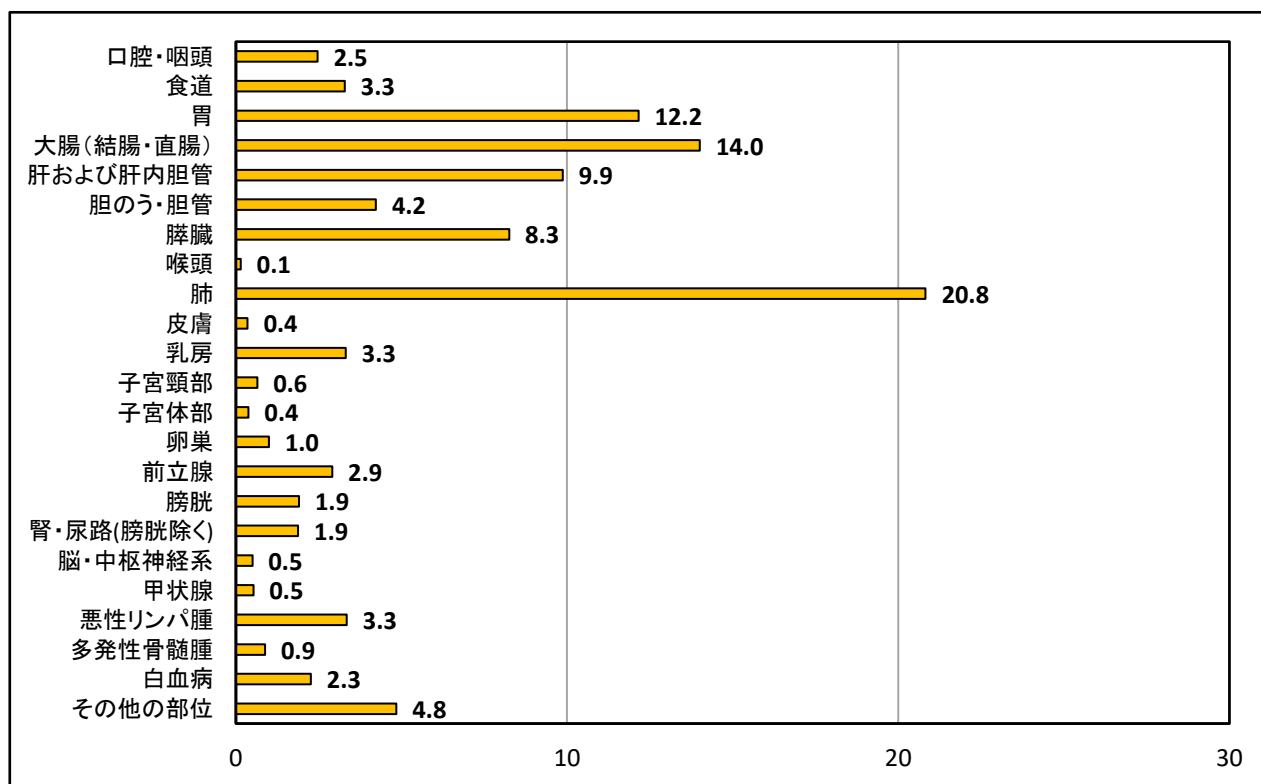
【男性】



【女性】



【男女計】

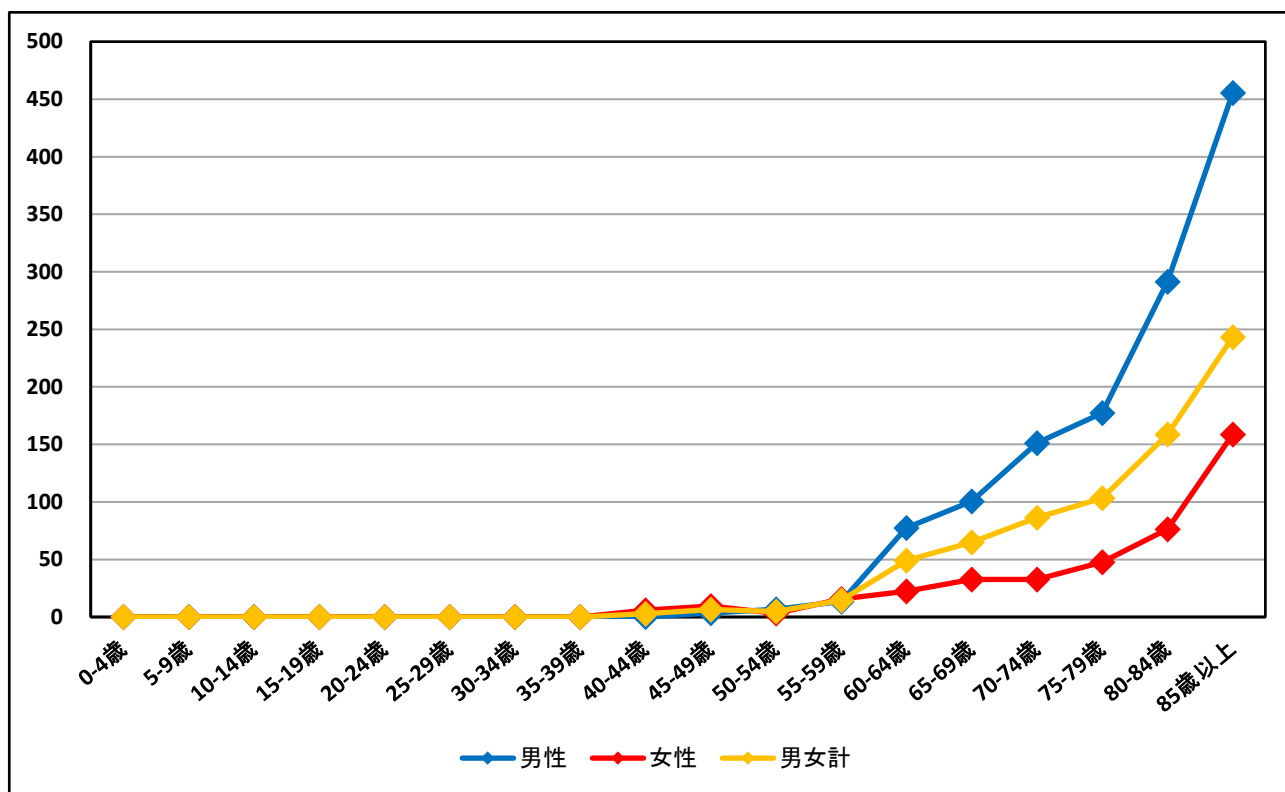


男性は肺がんが特に高く、次いで胃がん、大腸（結腸・直腸）がんの順に高くなっている。女性では大腸（結腸・直腸）がんが特に高く、次いで肺がん、胃がん、膵臓がんの順に高くなっている。男女計では、肺がんが最も高く、次いで大腸（結腸・直腸）がん、胃がんの順に高くなっている。

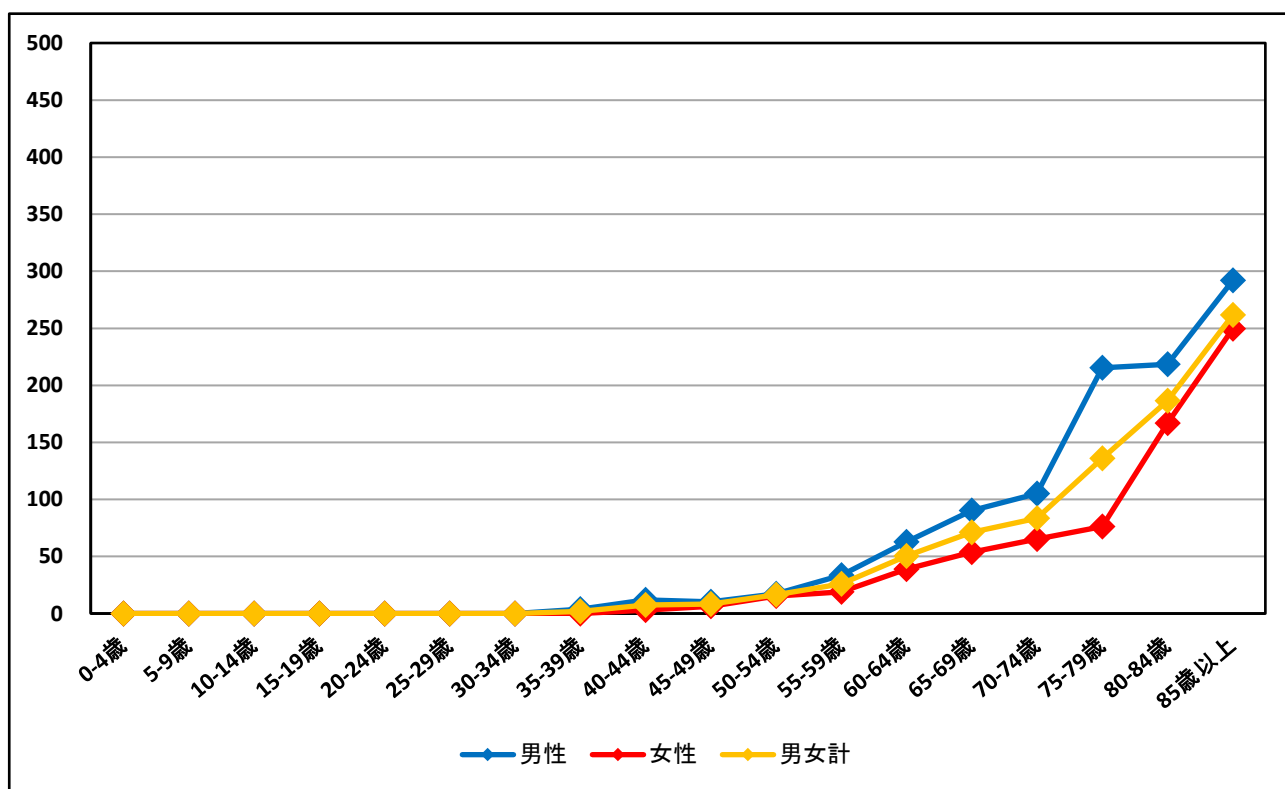
年齢階級別死亡率（人口 10 万対）：部位別、性別（主要部位）

※標準集計表の表 11 から作成

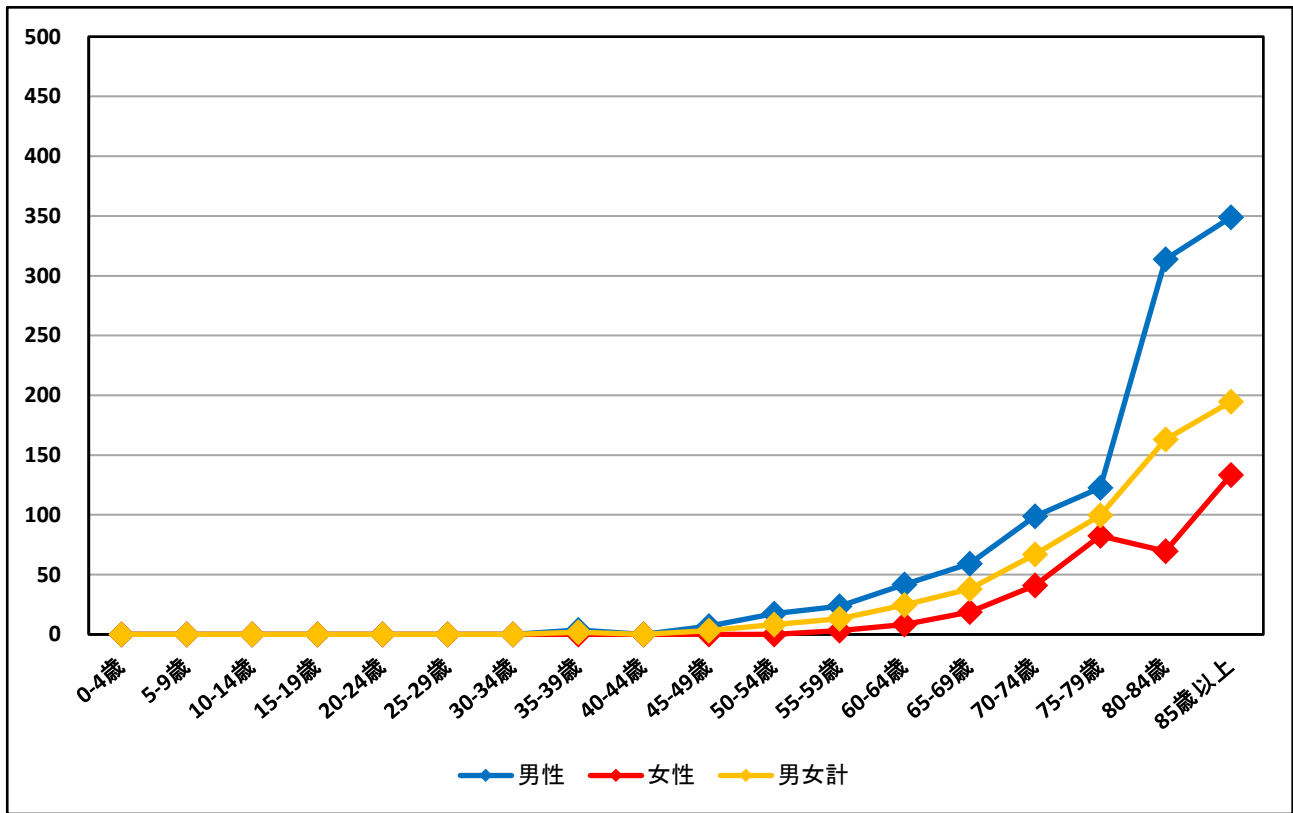
① 胃



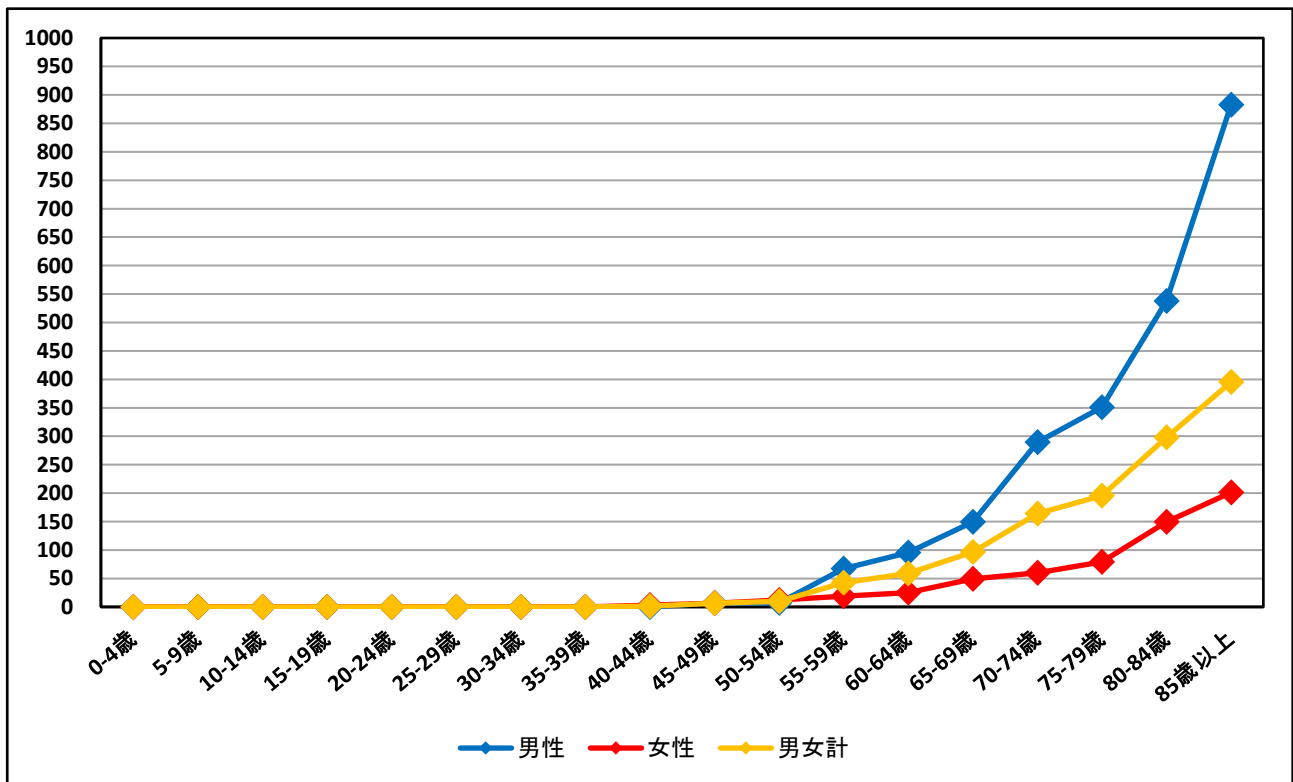
② 大腸（結腸・直腸）



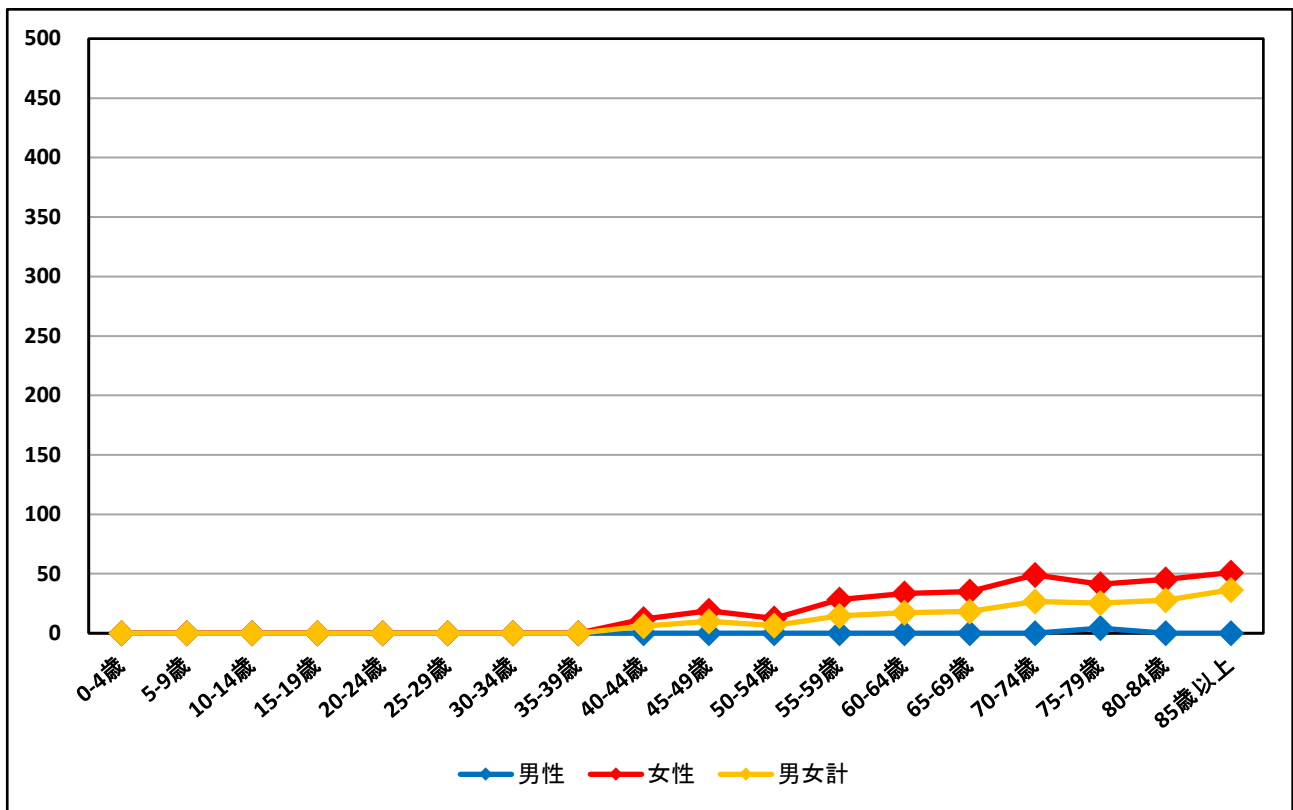
③ 肝および肝内胆管



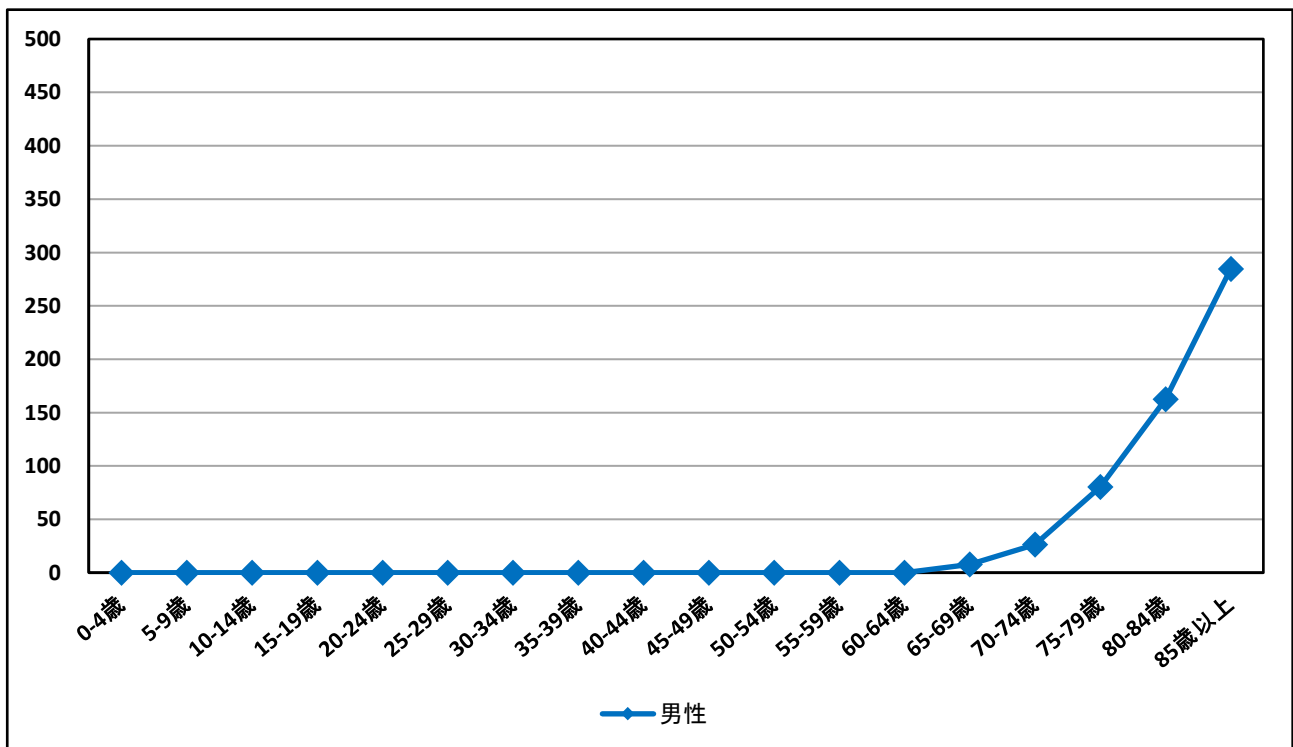
④ 肺



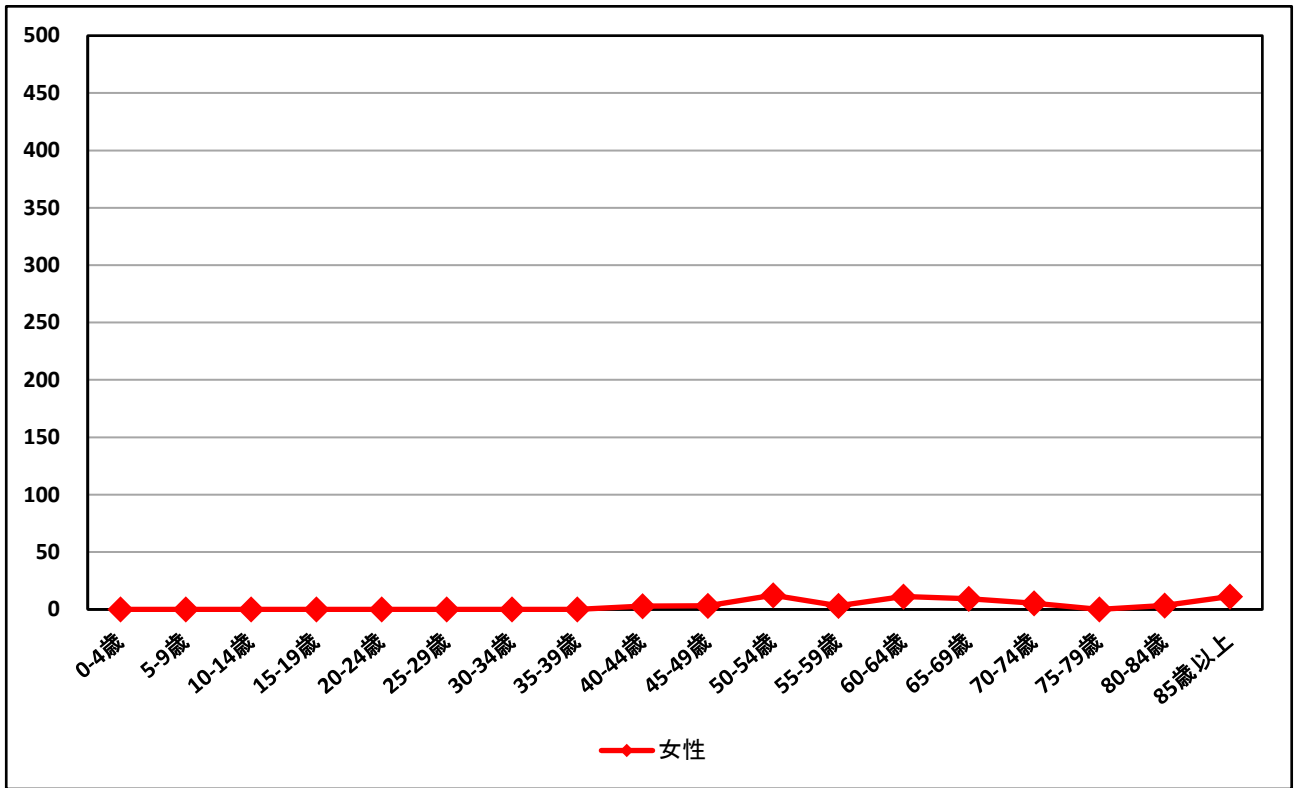
⑥ 乳房



⑦ 前立腺



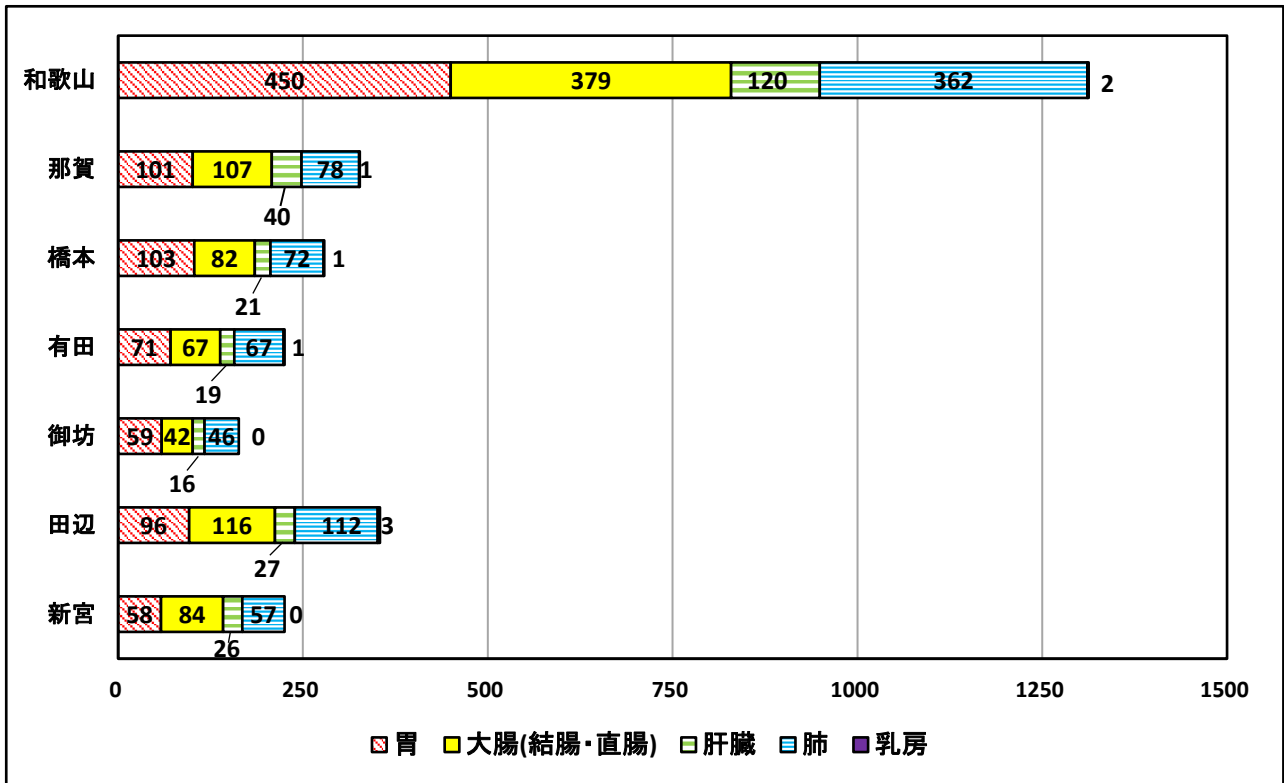
⑧ 子宮頸部



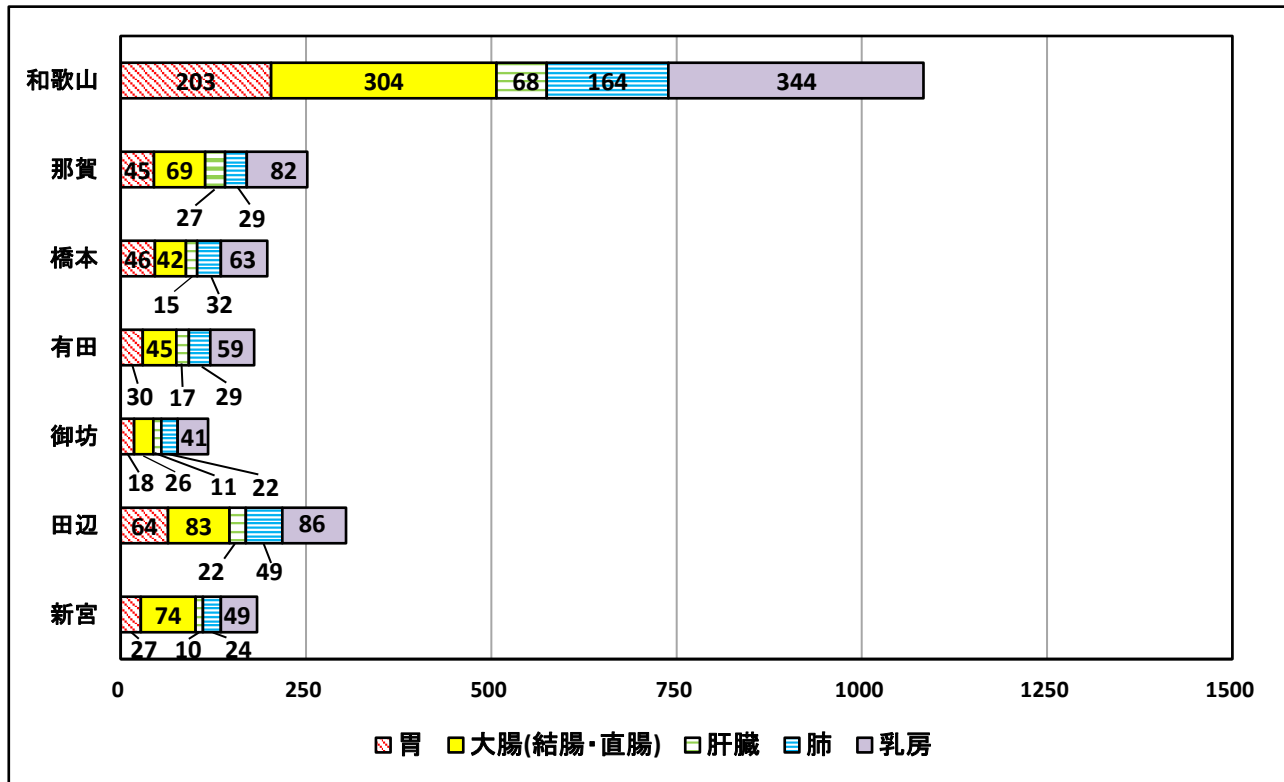
年齢階級の死亡率では、男女とも 50 代以上から死亡率が高くなっている。しかし、乳がんは 40 代から高くなっている。

医療圏別罹患数：部位別、性別（主要部位）

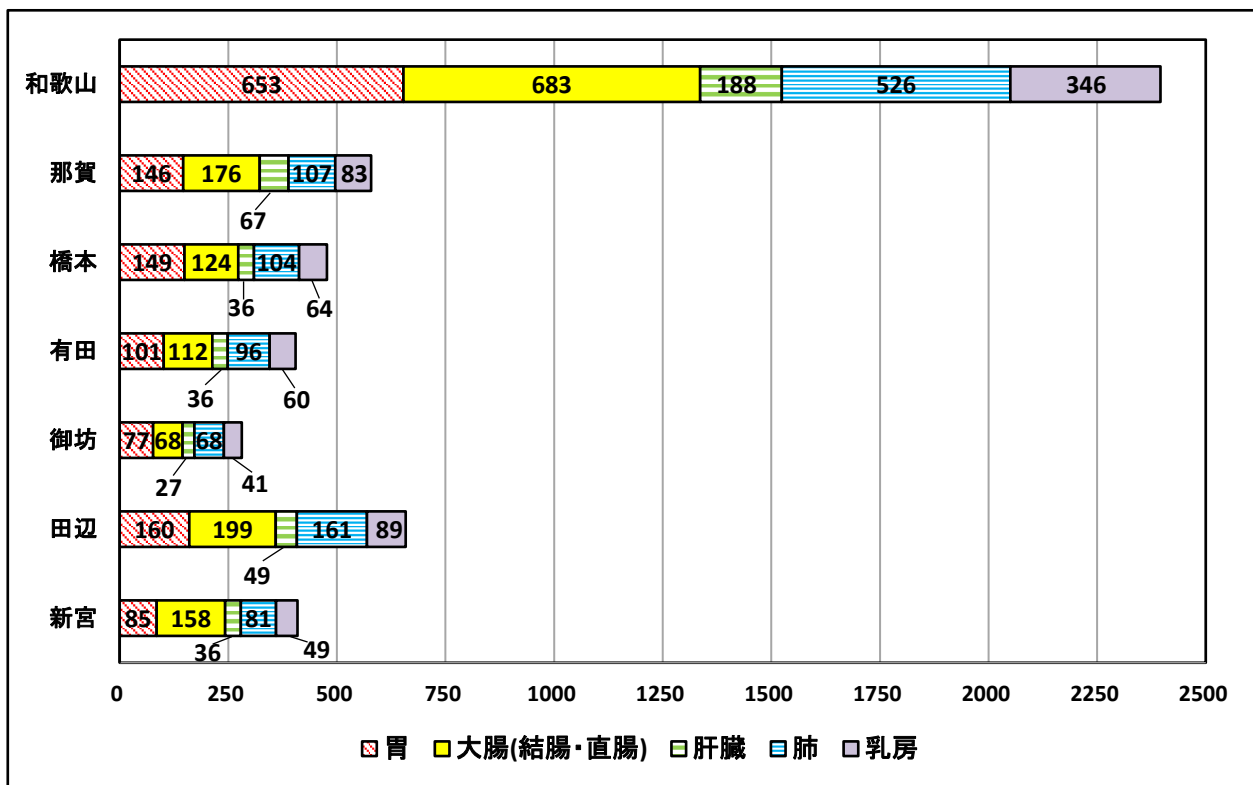
【男性】



【女性】



【男女計】



※ 医療圏別、保健所圏別罹患数：部位別、性別から作成